



2020 年度 立命館大学寺脇拓ゼミ地域連携・課題解決型プロジェクト

---

---

寺脇拓ゼミ

渚と森の青空ブックカフェプロジェクト

報告書

---

---

【分析部分抜粋】

2021 年 3 月

立命館大学経済学部 寺脇拓ゼミ

## 1. はじめに

2019年12月に中国の武漢市で報告された原因不明の肺炎は、後に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と名付けられ、いまなお世界中に拡散している（THE PAGE, 2020）。ジョンズ・ホプキンス大学が提供する「COVID-19 Dashboard」<sup>1</sup>によれば、2021年1月31日4時23分時点で、全世界の感染者の数は約1億230万人、死亡者は220万人にも上る。日本においても、新型コロナウイルスの感染者が確認された2020年1月16日から1年が経過したが（国立感染症研究所, 2020）、そのウイルスの感染拡大は一向に収まらず、我々は新型コロナウイルスと共存した生活を余儀なくされている。

この状況は、とりわけ飲食業に大きな打撃を与えている。現在様々な公的な支援制度が実施されているものの、各店舗は経営を成り立たせていくことが極めて難しい事態に陥っている。飲食店の利用者はどうしてもその食の場でマスクを外す必要があることから、各店舗は感染防止のため、席数を減らしたり、入店者数を制限したりする対策をとらざるを得ず（日本フードサービス協会, 2020）、客足が戻ってきた2020年10月でも、店舗の売上高は前年の水準を下回っている（日本フードサービス協会, 2021）。この問題は、厚生労働省が「新しい生活様式」の一つとしてあげている、食事中的会話を慎むことの徹底により解決されるかもしれない（厚生労働省, 2020）。福岡市のカレー店が提唱した、食事中的会話を控える「黙食」が共感を呼んでおり、こうした協力的な利用者の増加が今後飲食店の売り上げを支える可能性はある。しかしながら、必ずしも飲食が主目的とはならないカフェのような店舗では、若年層を中心に、友人との会話を目的に利用されることが多いことから（SHOPDX, 2015; TesTee Lab., 2016）、その実現は難しいと言わざるを得ない。そこでは、単に新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）における適切な振る舞いを利用者に求めるだけでなく、黙食・黙飲ができるような環境や仕掛けを提供することも必要になるものと思われる。

そこで本研究では、黙食・黙飲の実現を可能にするカフェ環境として、ブックカフェに注目し、コンジョイント分析の一つである選択型実験を用いてその需要を分析することに取り組む。ブックカフェは一般に店内に多くの本が並ぶカフェを指すものであり、西日本ブックカフェ協会（2016）によれば、その形態は様々で、買取ができるところもあれば閲覧だけの店舗もある。その目的も店舗によって異なるが、読書と共にカフェを楽しむ場であるこ

---

<sup>1</sup> COVID-19 Dashboard by the Center for Systems Science and Engineering (CSSE) at Johns Hopkins University (JHU)

(<https://gisanddata.maps.arcgis.com/apps/opsdashboard/index.html#/bda7594740fd40299423467b48e9ecf6>) 参照日：2020年1月31日

とは共通している。一般的なカフェのように必ずしも会話を目的としない点で、そこでの感染のリスクは格段に抑えられるものと期待されることから、ブックカフェは「with コロナ」に適したカフェ環境だといえる。ただし、後述するように、ブックカフェではどうしても利用者一人当たりの滞在時間が長くなったり、本の管理にコストがかかったりすることから、提供される飲食物の価格が割高にならざるを得ない。この実態を踏まえて、本研究では、人々がブックカフェで提供されるコーヒーの価格に対して、どれだけの追加的な金額を支払う意思があるのかを計測し、その店舗形態の普及可能性を検討する。加えて、ブックカフェに行くために犠牲にしても良いと思う移動時間も計測する。これらの情報は、ブックカフェの出店を考える経営者にとって有益な情報となろう。

また本研究では、コロナ禍の状況により適したブックカフェとして、これまでにない屋外型のブックカフェを提案し、「屋外で読書と共にカフェを楽しむ空間」の価値を計測することにも取り組む。当団体を知る限り、既存のブックカフェは、その多くが比較的閉鎖的な屋内にあり、外の騒音から離れて静かに本を読むことができる空間を提供している。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止という点では、屋内よりも屋外の方がその感染リスクは小さくなるものと期待される。最近では、オープンテラス付きのカフェが多くみられるようになり、街の景観や賑わいを生み出す機能を持つものとして（井上他, 2013）、また食と共に自然の景観を楽しめる場として注目を集めている（SankeiBiz, 2019）。2020年6月には、「国土交通省が、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等を支援する緊急措置として、地方公共団体と地域住民・団体等が一体となって取り組む沿道飲食店等の路上利用の占用許可基準を緩和する（国土交通省, 2020）」取り組みを開始した。これを受けて、多くの自治体が、街の賑わいを創出すると共に、店舗内の人の密集を緩和するために、社会実験的に歩道などにオープンテラスを設置する事業を進めている<sup>2</sup>。この動きに倣い、本研究においても、一つの社会実験として、公共の場を活用したオープンなブックカフェ空間を作り出す。具体的には、琵琶湖の畔にある大津湖岸なぎさ公園で、屋外型のブックカフェ空間を提供し、滋賀の古書店の協力を得て、自然豊かな空間で読書と共にカフェを楽しむイベント「渚と森の青空ブックカフェ」を開催する。その狙いは、利用者に屋外型のブックカフェを体験してもらうことで、「屋外で読書をしながらカフェを楽しむ」ことの良さ（悪さ）を感覚的に知ってもらうところにある。その上で、その参加者を対象に、選択型実験の質問を含むアンケート調査を行い、「オープンテラス付きのブックカフェは屋内のみのブックカフェよりも選好される」という仮説を検証する。加えて、そのオープンテラス付きのブックカフェで提供されるコーヒーに対する追加的な支払意思額も計測する。さらに、当団体

---

<sup>2</sup> 例えば、静岡県藤枝市（2020）、栃木県小山市（2020）などがあげられる。

が開催したイベントがもたらす社会便益を、トラベルコスト法を用いて計測することにも取り組む。

本論文の構成は次の通りである。第 2 章では、ブックカフェの経営を取り巻く現状を整理するとともに、先行研究をサーベイし、本研究の新規性を確認する。第 3 章では、2020 年 11 月 7 日（土）、8 日（日）に当団体が開催した「渚と森の青空ブックカフェ」イベントの概要を紹介する。第 4 章では、分析手法として用いる選択型実験の実験デザインと推定モデル、およびトラベルコスト法の基本的な考え方を説明する。第 5 章では、アンケート調査の単純集計結果を考察する。第 6 章では、カフェ属性に関する効用関数の推定結果を示し、ブックカフェの普及の観点からその結果を考察する。第 7 章では、当イベントに対するレクリエーション需要関数を推定し、その結果を用いて、今回の「渚と森の青空ブックカフェ」イベントが生み出した社会便益を計測する。第 8 章では本研究で得られた知見とともに、残された課題を述べる。さらに補論として、今回の活動資金を集めるために取り組んだクラウドファンディングの概要を紹介する。

## 2. ブックカフェを取り巻く現状とその社会的意義

### 2.1 飲食業の経営悪化の実態

現在、新型コロナウイルスの感染拡大によって、飲食店業界は経営悪化の苦境に立たされている。飲食店は店舗内の人の密集を避けるために座席数を減らさざるを得ず、人々は不要不急の外出を控えることから、必然的に来店者数は減少する傾向にある。図 2-1 は、2019 年 1 月から 2020 年 12 月までの飲食店の売上高と店舗数の推移を、前年同月比でみたものである。この図から、2020 年 4 月に全国に向けて発出された緊急事態宣言を受け、飲食店の売上はその月に大幅な落ち込みを見せていることがわかる。その後、5 月にその宣言が解除されてからは、農林水産省の「Go To Eat キャンペーン事業」の効果もあって、一次的に回復の兆しを見せたものの、年末にかけて感染者が増加してきたことから、10 月以降再び売り上げは減少傾向へと転じている。注目すべきは、この間、経営を続けられなくなった店舗が現れるようになり、店舗数が次第に減少していることである。帝国データバンクの調査によれば、2020 年 11 月までの飲食店の倒産件数は 736 件に達し、11 月時点で過去最多となることが確定した (Foodist Media, 2020b)。また、東京商工リサーチが 2020 年 12 月に企業を対象に行ったアンケート調査によれば、廃業を検討する可能性が「ある」と回答した企業の割合が最も高かったのが飲食店業界で、その割合は 32.7%であった。2021 年 1 月

には、再び緊急事態宣言が発出され、この宣言のもと、該当都府県は各店舗に営業時間の短縮を要請している。こうした現状を見れば、飲食店を取り巻く状況は、今後さらに深刻なものになると予想される。

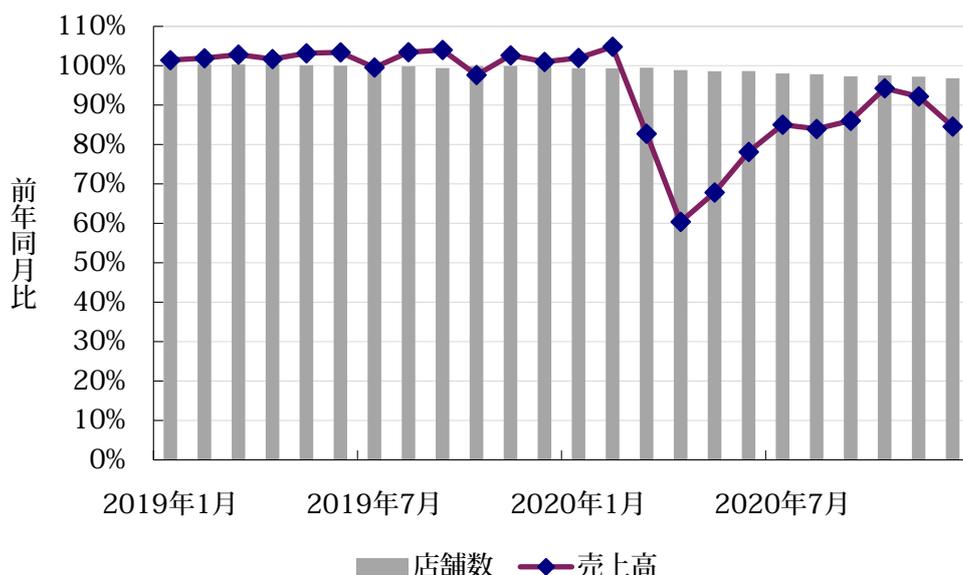


図 2-1 飲食店の店舗数と売上高の推移

出典：日本フードサービス協会（2021）のデータをもとに筆者作成

業態別に売上高の推移をみると、本研究で注目するカフェ（喫茶）は、コロナ禍の影響を大きく受けた業態の一つだといえる。経営悪化が最も顕著であったのは、当然のことながら、営業時間短縮の直接的な影響を受けるパブレストランや居酒屋である。図 2-2 からわかるように、2020年4月には、パブレストランや居酒屋の売り上げは、同月前年比の10%を下回った。次いで、厳しい状況におかれているのが、ディナーレストランとカフェである。ディナーレストランの売り上げが落ち込んだ要因としては、パブレストランや居酒屋と同様に、営業時間の短縮要請が大きいものと思われるが、カフェについては必ずしもそれは当てはまらない。カフェの売り上げの大幅な落ち込みは、利用者の目的が必ずしも飲食ではなく、人との会話にあることによるものと考えられる。サイクスが行った「喫茶店カフェに関する意識調査」によると、カフェの利用目的として最も多いのが「気分転換」で、50.7%を占め、次いで「時間調整・暇つぶし」と「おしゃべり、何らかの集まり」が46.7%を占めた（SHOPDX, 2015）。また、TesTee Lab. (2016) による、10代の女性に限定して行われた調査によれば、最も多い利用目的は「友人・恋人とのおしゃべり」で55.3%を占め、二

番目に多い「勉強や仕事」(26.1%)を大きく引き離す結果となった。2002年に10代から20代の女性を対象に行われたマクロミル(2002)の調査では、カフェの利用場面として「くつろぎ、休憩の場」をあげる人が67%と圧倒的に多く、二番目に多い「会話の場」が18%にとどまっていたことを考えれば、カフェが会話の場として利用される傾向は、近年より強くなってきているものと考えられる。現在のコロナ禍の中では、人と会い、会話をすることの自粛が求められていることから、その頻度の減少が、カフェにおける売上げの低下を招いている可能性がある。この問題を解決するためには、利用者が会話を主目的とするカフェの楽しみ方を根本的に見直すと共に、店舗側はその転換を促す環境の提供に取り組む必要があるものと当団体は考える。

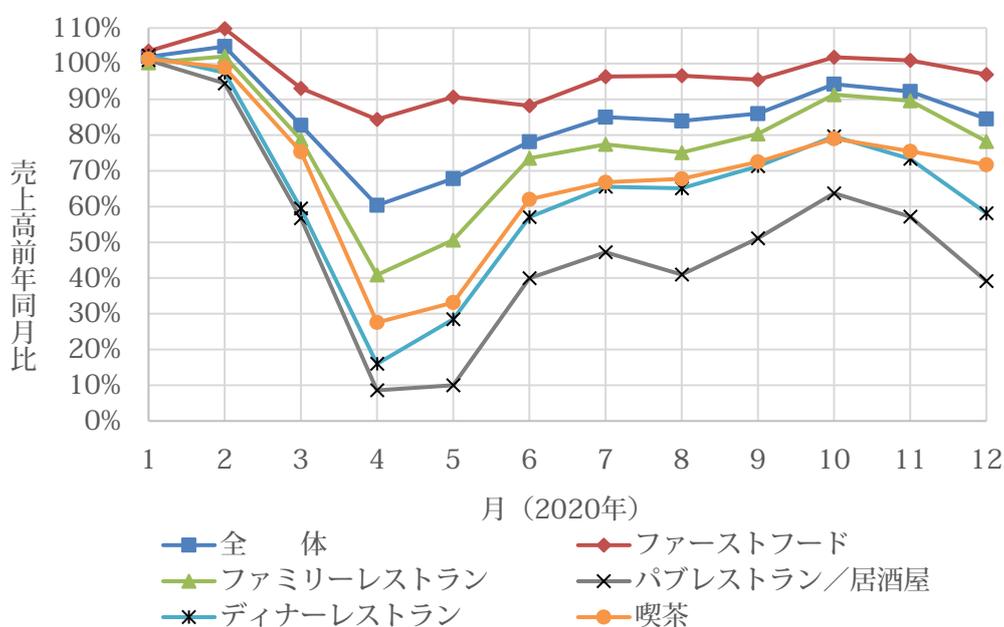


図 2-2 業態別にみた飲食店の売上高の推移 (2020年)

出典：日本フードサービス協会 (2021) のデータをもとに筆者作成

## 2.2 ブックカフェの意義と現状

会話の場としてのカフェから、コロナ禍の状況にも適応するカフェへと、目的の転換を図る上で、その方向性のヒントを与えるものがブックカフェである。ブックカフェという言葉に対する明確な定義はなく、一般には「多くの本が置かれた環境で、読書と共にカフェを楽しむ場」としてとらえられる。基本的には、静かに本を読みながら飲食をする場として利用されるべきものであるため、人との会話は最低限にとどめられ、感染のリスクは通常のカフェ

ェと比べれば格段に低くなる。この点で、ブックカフェはコロナ禍にも適応したカフェ空間であり、感染を心配する人々にとっても、比較的安心して利用できるカフェだといえる。

ブックカフェの形態には様々なものがあり、大きく(1)新刊書店にカフェが併設したもの、(2)古本屋にカフェが併設したもの、(3)閲覧のみのカフェの三つタイプに分けられる(西日本ブックカフェ協会, 2016)。(1)の形態は、主に大手書店チェーンに多く見られる。例えば、蔦屋書店はスターバックスコーヒーと提携して、そのコーヒーショップを店内に併設する事業を展開しており、利用者は店内のベンチなどで、店頭に並べられた本や雑誌を読みながらカフェを楽しむことができる(クレアネット, 2015)。イオングループの未来屋書店もまた、タリーズコーヒーとコラボレーションしたり、自社直営のカフェ「MIRAIYA Bookmark Lounge café」を書店に併設したりして、同様のブックカフェ事業を展開している(未来屋書店, 2015, 2017)。一方で、(2)(3)のタイプは個人経営の店舗に多く、後述するように、コンセプトが明確で、他にはない個性を備えているところが多い。新型コロナウイルスの感染防止の観点からは、読書にふけることで、会話が減少するところが重要なポイントとなる。その意味では、多くの人が店内を動き回り、必ずしも静かな環境とはいえない(1)の形態よりも、比較的読書に集中しやすい(2)(3)の形態の方が、このコロナ禍においては望ましい環境だと言える。

ブックカフェの市場規模については、客観的なデータは得られないものの、脇田(2016)や藤岡(2015)にその拡大傾向を示す記述がある<sup>3</sup>。そうしたブックカフェの増加傾向の背景には、新刊書店の減少があると西日本ブックカフェ協会(2016)は考察する。図2-3からわかるように、日本における新刊書店の数は年々減少する傾向にあり、1999年から2017年までの間に約1万店舗減少している。全国の自治体の約20%に当たる322市町村には、新刊書店が一店も存在していないという(西日本ブックカフェ協会, 2016)。こうした状況の中で、読書人口の減少を懸念し、本との出会いの場を提供しようとする強い思いを持ったオーナーが、比較的開業資金が小さいブックカフェを始める傾向にあり、それが全国的に広まったものと考えられている。

---

<sup>3</sup> 脇田(2016)には「カフェを併設している書店が増えている(p.178)」、藤岡(2015)には「当初は店舗大型化に伴うサービス追加策として、大型書店の店内に併設したカフェに購入前の書籍を持ち込み可能とした形態が多く登場したが、その後、個人経営のカフェを中心に他店との差別化の一環として、本棚を充実させ自由に来店者が閲覧可能とする、あるいは書籍や関連小物の販売も同時に行うといった形態が広まっていった(p.39)」との記述がある。また、2.3でも述べているように、西日本ブックカフェ協会(2016)のページでも「コンセプトが明確で個性的なブックカフェが全国的に増加しています」との記述がある。

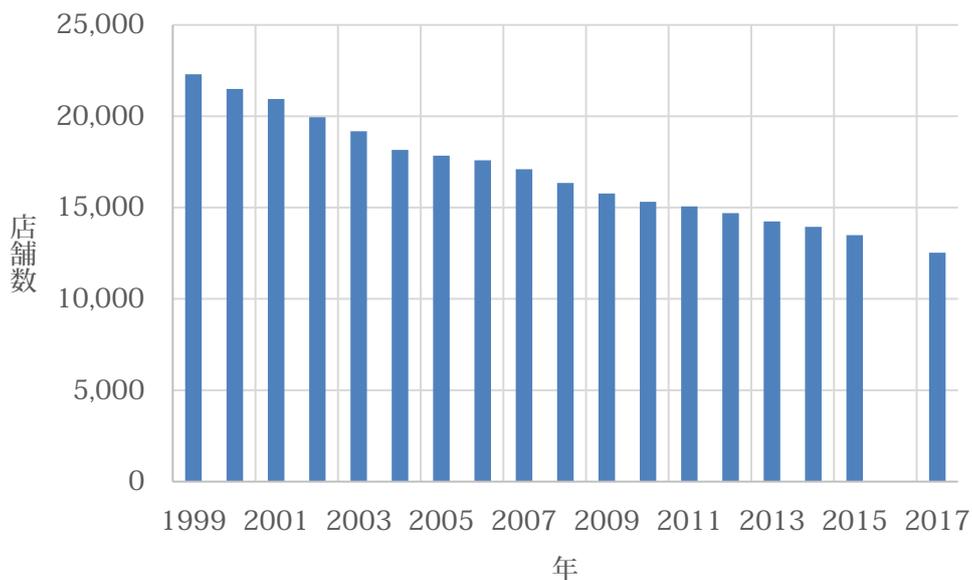


図 2-3 新刊書店数の推移

注：(1) 2017 年は 5 月 1 日時点での数値である。(2) 本部や営業所、外商のみの書店を含む。(3) 2016 年は、大阪屋と栗田出版販売の経営統合、太洋社の破産など、総合取次再編の動きがあったことで集計できず、データがない。

出典：日本著者販促センター（2017）のデータをもとに筆者作成

### 2.3 ブックカフェ経営の実態

当団体はまず、2020 年の 9 月に滋賀県内にある三つのブックカフェを訪問し、その経営の実態についてヒアリングを行った。上述の通り、コロナ禍の状況にも適応するという点では、大手書店チェーンのブックカフェよりも、個人経営の店舗の方が望ましいものと考え、前者は調査の対象外とした。西日本ブックカフェ協会（2016）のページには、「コンセプトが明確で個性的なブックカフェが全国的に増加しています」との記述があるが、実際に、今回訪問したブックカフェはいずれも「コンセプトが明確で個性的なブックカフェ」と呼べるものであった。なお、以下の内容はその当時のヒアリングに基づくものであり、その後に変更があったものは反映されていない。

#### (1) Book café すくらむ（住暮楽）

店舗は、北陸と近畿を結ぶ北国街道木之本宿の旧本陣近くにある。長年木之本で活躍してきた、様々な分野の女性スペシャリストが文字通りスクラムを組み、クラウドファンディ

ングで資金を集め、空き家だった築 100 年の古民家を改築して、ブックカフェを 2016 年に開業させた。店内には、メンバーの一人が店主を務める古書店「あいたくて書房」の本が約 300 冊並べられ、読書をしながら、地元の食材を使った郷土料理のランチや、手作りのドリンク、スイーツなどを楽しむことができる。古書店で販売される本が並べられていることから、それらの本を買い取ることも可能である。利用時間に制限はなく、客数は多い日で 20 人程度、滞在時間は 2 時間以上とのことであった。コーヒーの価格は 400 円と比較的安めに設定されている。3 ヶ月ごとにテーマを変え、それに合わせて並べられる本が決められる。

## (2) DONGREE BOOKS & STORY CAFE

店舗は、旧東海道石部宿に位置しており、昔ながらの建物が多く立ち並ぶ住宅街の中にある。古民家をリノベーションして作られた、ユニークでかつ落ち着いた空間の店内には、約 300 冊の「栞本」が並べられ、店主の方自ら焙煎された香り深いコーヒーを味わいながら、それらの本を自由に手にとって読むことができる。栞本とは、本の持ち主だった方のメッセージが書かれた栞を挟んだ、世界に一冊だけの古本である。この栞本を読むことで、人々は本を介した新しい形のコミュニケーションを体験する。利用時間に制限はなく、客数は多い日で 50 人弱程度、滞在時間は 2～3 時間程度の人が多いとのことである。ブレンドコーヒーの価格は 500 円で、自家焙煎によりコストを抑えられている。店主は「Next Commons Lab 湖南」のサポートを受け、地域おこし協力隊制度を利用して 2019 年に湖南省に移住し、2020 年にこの店舗を開業された。

## (3) むあ文庫

店舗は、比叡山の麓の門前町坂本に位置する。住宅地の中に突如として現れる、緑あふれる庭園の奥に文庫がひっそりと佇んでおり、その中には 4000 冊もの絵本や児童文学書がぎっしりと並ぶ。それを店内に持ち込んで、読書をしながらこだわりのケーキやコーヒーを楽しむことができる。かつては子供向けに開放していた文庫を 10 年ぶりに開き、2017 年にブックカフェ<sup>4</sup>の形で店舗を開業された。社会情勢を見ながら 3 ヶ月に 1 回テーマを見直し、それに合わせて店内に並べる本を入れ替えられている。利用時間に制限はなく、客数は多い日で 30 人程度、滞在時間は 2 時間程度の人が多いとのことであった。ブレンドコーヒーの価格は 600 円とやや高めに設定されているが、本好きの方のために本を読む場を提供

---

<sup>4</sup> 本研究では、この店舗をブックカフェとして扱っているが、店主の方は、その店舗が「ブックカフェ」と呼ばれることに違和感があるとおっしゃられていた。

するという考えのもと、営利目的というよりは文庫の存続を目的にカフェを経営されており、売り上げは新たな本の購入や修復に使われている。

以上三つのブックカフェの特徴を整理したものが表 2-1 である。これらのヒアリングの結果から、三つのブックカフェに共通するポイントとして、以下の二点を指摘することができる。一つは、いずれのブックカフェについても、何らかの社会問題の解決に資するソーシャルビジネスとしての特性を備えているところである。西日本ブックカフェ協会（2016）は、ブックカフェの普及には、地域の問題を解決する、あるいは地域を活性化する可能性が秘められていると主張する。上記の三つのカフェはいずれも、営利だけを目的としておらず、空き家対策や地域活性化（Book café すくらむ・DONGREE BOOKS & STORY CAFÉ）、新たなコミュニティの創出（DONGREE BOOKS & STORY CAFE）、知の資産の継承（むあ文庫）といった社会貢献をその経営の目的に含めている。もう一つは、利用者の滞在時間が 2 時間を超えることである。TesTee Lab.（2016）による、10 代の女性に限定した調査では、通常のカフェの滞在時間は「31～60 分」が最も多く、43.4%を占める結果となり、2 時間を超える人は全体の 4.2%に過ぎなかった。これは、ブックカフェにおける利用客の回転率の低さと、それに伴う売り上げの相対的な低さを物語る<sup>5</sup>。一点目のソーシャルビジネスとしての特性は、その社会貢献が利用者に適切に評価されるなら、ブックカフェの売り上げを相対的に高める可能性がある。しかしながら、この利用客の回転率の低さという特徴は、間違いなくブックカフェの売り上げを引き下げる。上述の通り、ブックカフェはコロナ禍に適応したカフェ形態であることから、その点でも社会貢献の特性を持つ。こうしたブックカフェのメリットを、利用者が金銭ベースでどれほど評価するのかがわかれば、それはブックカフェの開業を考える経営者の判断を助ける情報になるだろう。

---

<sup>5</sup> 当団体は当初、普通のカフェで社会実験的にブックカフェを展開する研究プロジェクトを計画していたが、利用客の回転率の低さが懸念されることから、協力店舗が見つからず、計画の変更を余儀なくされた経緯がある。

表 2-1 滋賀県内のブックカフェの特徴

	Book café すくらむ	DONGREE BOOKS & STORY CAFE	むあ文庫
場所	長浜市木之本町	湖南市石部	大津市坂本
営業日	日曜日	金～月曜日	土・日曜日
特徴	古民家・郷土料理	古民家・朧本	文庫併設・児童文学書
客数	多い日で 20 人程度	多い日で 50 人弱	多い日で 30 人程度
滞在時間	2 時間以上	2～3 時間程度	2 時間程度
時間制限	なし	なし	なし
冊数	約 300 冊	約 300 冊	約 4000 冊
ブレンドコーヒーの価格	400 円	500 円	600 円

注：情報は 2020 年 11 月時点のもの。

出典：筆者作成

## 2.4 先行研究のサーベイと本研究の新規性

新型コロナウイルスの感染拡大が世界中で深刻な問題として認識されるようになってからまだ 1 年も経っていない。そのため、現時点では、コロナ禍における消費者の選択や選好を分析した研究は、当団体の知る限りほとんど存在しない。それでも海外では、以下の三つの先行事例が存在する。

Kim and Lee (2020) は、アメリカに住む消費者を対象として、新型コロナウイルスに対する脅威の認識や刺激が、個室を備えたレストランに対する人々の選好に与える影響を分析した。その結果、新型コロナウイルスの感染拡大の脅威を強く感じる人ほど、そしてその刺激が大きいほど、個室のレストランや個別に区切られたテーブルに対する選好が強くなることが示された。ただし、この研究では、コンジョイント分析は使われず、個室を備えたレストランに対する被験者の評定値を被説明変数として、最小二乗法によりその評定値の規定要因が分析された。

Grashuis et al. (2020) は、アメリカの消費者を対象に、コロナ禍での食料品購入行動に関する人々の選択や選好を実証した。具体的には、過去 2 週間の新規感染者数の平均が増加した場合、変わらなかった場合、減少した場合の三つのシナリオを設定し、購入方法、受け取りまでの時間、最低注文金額、利用料金を属性とする選択型実験を行った。分析の結果、新型コロナウイルスの感染拡大の状況が人々の食料品購入行動に有意な影響を与えることが明らかとなり、とりわけ、感染者数が増加する状況では、人々は店内でのショッピングを

避ける傾向が、減少する状況では、自宅へのデリバリーに対する選好が相対的に低下する傾向が示された。

また、Reed et al. (2020) は、国の政策の観点から、新型コロナウイルスの感染防止と経済への影響のトレードオフに対するアメリカ人の受入意思を分析した。彼らは、アメリカの50の州に渡るサンプルを集め、生活に不可欠ではない業種が再開する時期、感染者の数、貧困下にある家族の割合、経済が回復するまでの期間を属性とする選択型実験を実施した。潜在クラスモデルを用いて分析した結果、リスクを最小化したい人々のグループ（36%）、判断を急がない人々のグループ（26%）、経済の回復を支持する人々のグループ（25%）、経済活動の再開を最優先に考えるグループ（20%）の四つが検出され、新型コロナウイルスの問題に対する人々の多様な態度が確認された。

このコロナ禍の時代に限らず、ブックカフェに対する人々の選好や選択に焦点を合わせ、それを実証した研究はこれまでに存在しない。当然のことながら、当団体が開催した屋外型のブックカフェに対する選好を分析する研究もなく、本研究はこれまでにない新たな試みだと言える。

### 3. 渚と森の青空ブックカフェイベントの概要

屋外型のブックカフェに対する人々の選好を知るためには、まずは人々にそのブックカフェを体験してもらう必要がある。そこで当活動では、琵琶湖の畔にある大津湖岸なぎさ公園<sup>6</sup>にて、実際に屋外型のブックカフェ空間を作り出し、自然豊かな空間で読書と共にカフェを楽しむイベント「渚と森の青空ブックカフェ」（以下、青空ブックカフェ）を開催した。実施したイベントの概要は表 3-1 のように整理される。

---

<sup>6</sup> 大津湖岸なぎさ公園は、琵琶湖南部の湖岸一帯に作られた公園であり、大津港から瀬田川の河口に至るまでの約 4.8 km に及ぶ。今回のイベント開催場所は、その中では比較的北の方に位置する。

表 3-1 当団体が開催したイベントの概要

イベント名	渚と森の青空ブックカフェ
日時	2020年11月7日(土)、8日(日)、11時～16時
場所	大津湖岸なぎさ公園(なぎさのテラス前の芝生公園と打出の森)
主な内容	(1) ドリンク・本持ち込み自由の屋外ブックカフェ空間の提供 (2) 古本市の開催 (3) 滋賀の古書店・ブックカフェを紹介するパンフレットの配布 (4) 栞本プロジェクト(DONGREE BOOKS&STORY CAFE とのコラボレーション)
後援・協力組織	大津市、(株)まちづくり大津

出典：筆者作成

イベントは、JR 大津駅から徒歩 20 分、JR 膳所駅からは徒歩 15 分の位置にある「なぎさのテラス」前の芝生広場と打出の森にて開催した。なぎさのテラスは、「なぎさ WARMS」「ショコラ」「アンチョビ」「ハッシン」の四つのカフェレストランから構成され、その周りは大津市が管理する大津湖岸なぎさ公園となる。計画していた会場の構成は図 3-1 の通りである。当初は芝生広場と打出の森をそれぞれ「渚ゾーン」「森ゾーン」として、渚ゾーンにはテーブル 1 卓とイス 2 脚のセットを 6 セット、森ゾーンにはそれらを 5 セット配置する予定であったが、天候などを勘案して、当日 11 セット全てをなぎさのテラス前の芝生に集める判断をした。結果、席と席との間隔が空きすぎたり、狭すぎたりすることなく、適度な距離で座席が配置できたものと考えている(図 3-2)



図 3-1 会場の構成 (当初計画)

出典：筆者作成



図 3-2 当日のイベントの様子 (11月8日)

出典：筆者撮影

開催日は、例年の気象データから、比較的雨が少なく、気温も穏やかな11月上旬の週末に設定した。当日の天候は表3-2の通りである。初日の11月7日(土)は生憎の曇り空となり、雨が降り出した15時に切り上げ、参加者も38名にとどまった。しかしながら、翌日の8日(日)には天気は回復し、風は強かったものの、晴天の中で文字通り青空ブックカフェを開催することができた。参加者も71名に増加した<sup>7</sup>。

表3-2 イベント当日の大津市の天候

	11月7日(土)	11月8日(日)
平均気温	13.9℃	15.6℃
最高気温	14.7℃	20.2℃
平均風速	0.6m/s	1.7m/s
降水量	11.5mm	0.0mm

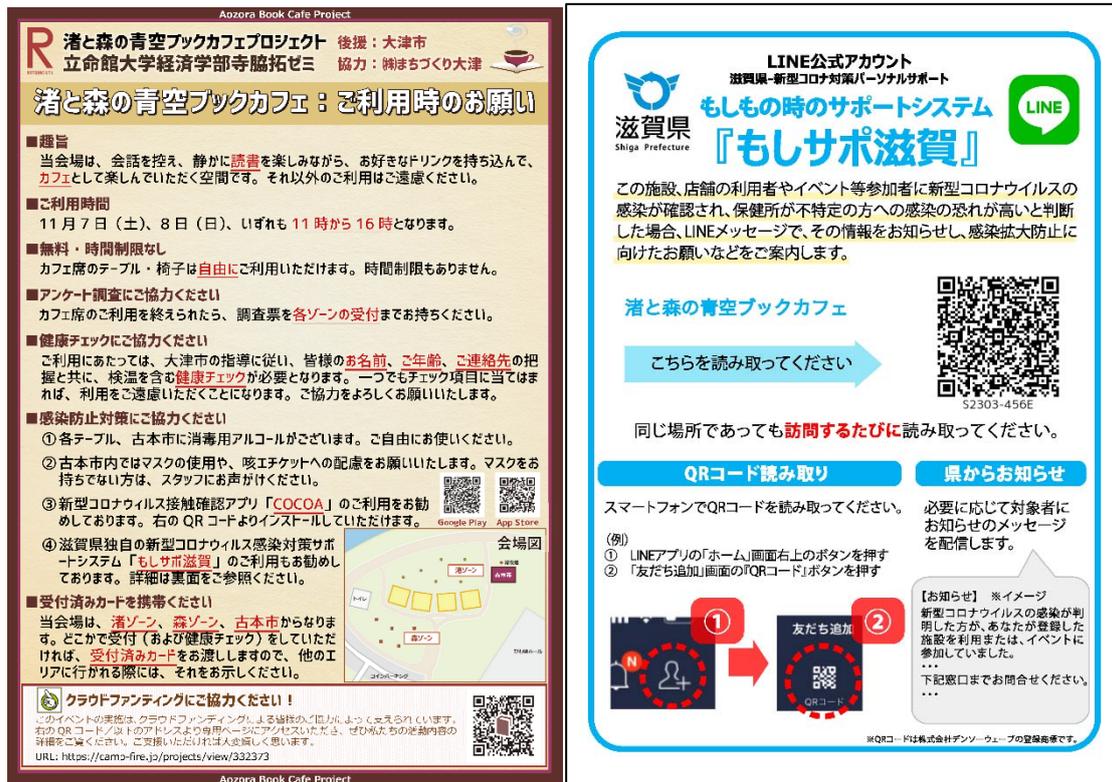
出典：気象庁「過去の気象データ検索」

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) より筆者作成

イベントの内容は、主に次の四つから構成される。

**ドリンク・本持ち込み自由の屋外ブックカフェ空間の提供** 公共の公園を利用することから、座席とテーブルは、基本的に誰でも自由に無料で使えるものとして提供した。ドリンクについても、なぎさのテラスで購入したテイクアウトドリンクはもちろんのこと、自宅からマイボトルで持参したものでも、他のショップや自動販売機で購入したものでもよいものとした。また、後述する古本市で本を購入された方には、コーヒーを無料で1杯サービスしたことから、それを飲みながら読書を楽しむ方もいた。利用者には、読書しながらカフェを楽しむ場であることを説明し、アンケート調査への協力をお願いした。図3-3のパネル(a)は、その説明の際に配布し、各テーブルにも備え付けた注意書きである。

<sup>7</sup> ここで示す参加者数は、後述する健康チェックシートの回収部数である。参加者数の中には、18歳未満の子供も含まれる。



(a) 表面

(b) 裏面

図 3-3 ブックカフェ利用時の注意書き

出典：筆者作成

**古本市の開催** 2.2 で整理したように、ブックカフェの形態の一つに、古本屋にカフェが併設したものがある（西日本ブックカフェ協会, 2016）。今回のイベントでは、この古書店を併設する形態を採用し、滋賀で古書店を営む「あいたくて書房」「半月舎」「Loupe 舎」「六月の水曜日」の四つの店舗に出店いただいた（表 3-3）。加えて、当団体メンバーの古本も持ち寄って、それらを販売する学生ブースも設置した。また、古本の購入者には、コーヒーを無料で 1 杯サービスし、今回の青空ブックカフェの利用を促した。

表 3-3 協力古書店の概要

店舗名	場所	特徴
あいたくて書房	長浜市木之本町	本と人、人と人を繋ぐため、様々な場所で古本の販売や文庫の設置に取り組まれる。
半月舎	彦根市中央町	古本の販売と共にデザインの仕事も受けられている。古本のジャンルは多種多様。
Loupe 舎	長浜市宮前町	理科の教師であった店主の方が、理数系の本を中心に販売されている。
六月の水曜日※	東近江市八日市本町	支援金をもとに本を仕入れ、その本を無料で届ける取り組みを行っている。

注：いずれも 2020 年 11 月時点での情報である。「六月の水曜日」は現在彦根市にて、別の形態で店舗を営まれている。

出典：筆者作成

**滋賀の古書店・ブックカフェを紹介するパンフレットの配布** 当研究プロジェクトの目的はブックカフェに対する需要を計測することであるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けては、当団体は、これまでの会話を中心とするカフェの使い方を根本から見直し、一般的なカフェでも読書をしながら静かに過ごすスタイルの普及が必要と考える。このメッセージを広く伝えるため、今回協力を受けた四つの古書店、ならびにヒアリングを行った三つのブックカフェを紹介するパンフレット「書をたずさえてカフェに行こう」を作成し、その中に当団体のメッセージを含めた。このパンフレットは、A4 巻き三つ折り、カラー刷りで 6 ページから構成される。それを 2000 部印刷し、イベント内だけでなく、各協力店舗や大津市の観光案内所などで配布した。

**栞本プロジェクト** 2.3 で紹介した湖南市にあるブックカフェ「DONGREE BOOKS&STORY CAFE」が取り組む栞本プロジェクトに協力し、イベント内でその栞本を募った。提供いただいた本は 2 冊にとどまったが、チラシを受け取るなど、関心を示す参加者が一定数見られた。

また、当イベントは、コロナ禍の中で人を集めることになるため、徹底した感染対策を講じながら開催した。具体的な対策内容は表 3-4 の通りである。イベント会場内では、テーブルとテーブルの間を 2m 以上離し、青空ブックカフェの趣旨に沿って、できるだけ会話を控えてもらうようお願いするプレート（図 3-3）を各テーブルに設置した。テーブルには消毒用のアルコールも備えた。さらに、体温測定やアルコール消毒、古本市でのマスク着用の徹底は当然のこととして、大津市の指導の下、利用者には健康チェックシート（図 3-4）の記

入をお願いし、該当するものがあつた場合は、利用を遠慮いただく方針で取り組んだ。併せて、厚生労働省の感染防止アプリ「COCOA」と滋賀県の「もしサポ滋賀」の利用を強く推奨した。もしサポ滋賀については、会場を識別するQRコードを各テーブルに設置し、その読み取りを促した（図 3-3）。これらの説明と協力要請については、古本市を利用する方には併設された受付で、テーブル席のみを利用する方にはその座席にて行った。受付カウンター前の地面にはソーシャルディスタンスマークを貼り、受付時に適切な距離をとることができるよう配慮した。

表 3-4 イベント開催時の主な感染対策

場所	対策
会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) テーブルとテーブルの間を 2m 以上離す。</li> <li>(2) 青空ブックカフェの趣旨に沿い、できるだけ会話を控えてもらうようお願いするプレート（「もしサポ滋賀」の QR コードも記載）を各テーブルに置く。</li> <li>(3) 各テーブルに消毒用アルコールを備える。</li> </ul>
受付	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 非接触体温計で利用者の体温を測る。</li> <li>(2) 利用者に手のアルコール消毒をお願いする（古本市ではマスク着用も要請）。</li> <li>(3) 利用者に健康チェックシートに記入いただく（一つでも該当すれば利用を遠慮いただく）。</li> <li>(4) 厚生労働省の感染防止アプリ「COCOA」と滋賀県「もしサポ滋賀」を勧める。</li> <li>(5) 受付カウンター前の地面にソーシャルディスタンスマークを貼り、受付時の適切な距離の確保をお願いする。</li> </ul>

出典：筆者作成

健康チェックシート			
氏名	年齢	連絡先	体温
過去14日以内に以下の症状がありましたか？			
37.5℃以上の熱	咳（せき）	のどの痛み	倦怠感
有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無	有 ・ 無
過去14日以内に政府から観察期間を必要とされている国・地域への渡航、または当該在住者との濃厚接触がありましたか？			
有 ・ 無			
<small>※上記の5つの項目のうち、1つでも該当するものがあつた場合は、利用をご遠慮ください。          ※本用紙に記入いただきました内容については、「渚と森の青空ブックカフェ」に関わる感染者対応以外の目的には使用いたしません。また、プロジェクト終了後には適切に処分いたします。          ※参加者に感染者が出た場合には、保健所からの聞き取り調査へのご協力をお願いいたします。</small>			

図 3-4 健康チェックシート

出典：筆者作成

## 4. 分析手法と調査設計

### 4.1 コンジョイント分析

本研究では、ブックカフェに対する人々の選好を定量的に分析するために、非市場評価手法の一つであるコンジョイント分析を用いる。コンジョイント分析は、様々な属性レベルを持つ財やサービスをプロファイルと呼び、そのプロファイルの間の選好を直接質問することによって、その属性と効用の関係を説明する効用関数を推定し、そこから各属性に対する支払意思額を計測するものである。この手法は、もともとはマーケティングリサーチや心理学の分野で用いられてきたものであり、1990年代に入ってから経済学の分野で応用され、手法としての飛躍的な発展を遂げた（栗山・馬奈木, 2016；寺脇拓ゼミ, 2020）。

コンジョイント分析の手順は次の通りである。まず、(1) 対象となる財を構成する様々な属性とそのレベルを設定する。次に、(2) 統計的手法や実験計画法に基づいてそれらのレベルを組み合わせ、複数のプロファイルを作成する。(3) それらのプロファイルを被験者に提示し、各財に対する選好を尋ねる。(4) 得られたデータを統計的に分析し、効用関数を推定

する。そして最後に、(5) その効用関数から各属性に対する支払意思額を計測する。(3) の質問形式として、近年最もよく使われるものが選択型実験である。選択型実験は、複数の選択肢の中から 1 つを選択するものであり、現実の購買行動に類似することから、被験者が回答しやすく、高い回収率が期待される（栗山・庄子, 2005；寺脇拓ゼミ, 2020）。

## 4.2 実験デザイン

本コンジョイント調査においては、回答者にこれからカフェに行く状況を想像してもらい、異なる特性を持つ二つのカフェから行きたい方のカフェを選択してもらった。カフェを構成する属性とレベルは、表 4-1 のように整理される。ここでは (1) カフェの形態（ブックカフェ/普通のカフェ）、(2) 店舗の形態（オープンテラス付き/屋内のみ）、(3) 利用時間制限（2 時間制/なし）<sup>8</sup>、(4) よく利用する駅からの距離（徒歩 0 分/5 分/10 分/15 分）、(5) ブレンドコーヒーの価格（400 円/500 円/600 円/700 円）とした。

表 4-1 コンジョイント質問で設定したカフェの属性とレベル

属性	レベル			
	カフェの形態	ブックカフェ		普通のカフェ
店舗の形態	オープンテラス付き		屋内のみ	
利用時間制限	2 時間制		なし	
よく利用する駅からの距離	徒歩 0 分	徒歩 5 分	徒歩 10 分	徒歩 15 分
ブレンドコーヒーの価格	400 円	500 円	600 円	700 円

出典：筆者作成

これらの属性のレベルを様々な組み合わせでプロファイルを作成する。選択型実験では、しばしば異なるプロファイルを二つ並べ、「どちらも買わない」を含めて、三つの選択肢の中から一つを選んでもらう質問を回答者に複数回繰り返す。本分析では、ベイジアン D 最適設計（Kessels et al., 2011）を用いて、一人当たり 3 回質問を行う調査票を 4 バージョン作成した。表 4-2 はその一覧であり、図 4-1 はコンジョイント質問の一例である。これら 4 種類の調査票は回答者にランダムに配布された。

<sup>8</sup> 都心部のブックカフェでは、とりわけ混雑時には利用時間制限をおく店舗が多い。阿久津（2020）には「2 時間制というのは他の店でもしばしばみられる（p.23）」との記述があることから、利用時間制限のレベルとして、「2 時間制」を設定した。

表 4-2 プロファイル一覧

バージョン	質問	カフェの形態	店舗の形態	利用時間制限	よく利用する駅からの距離	ブレンドコーヒーの価格
1	1	ブックカフェ	オープンテラス付き	なし	徒歩 15 分	600 円
1	1	普通のカフェ	屋内のみ	なし	徒歩 10 分	400 円
1	2	普通のカフェ	屋内のみ	なし	徒歩 5 分	600 円
1	2	ブックカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 10 分	700 円
1	3	普通のカフェ	オープンテラス付き	なし	徒歩 15 分	700 円
1	3	普通のカフェ	オープンテラス付き	なし	徒歩 0 分	600 円
2	1	ブックカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 10 分	600 円
2	1	ブックカフェ	オープンテラス付き	なし	徒歩 15 分	500 円
2	2	普通のカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 15 分	400 円
2	2	ブックカフェ	屋内のみ	なし	徒歩 5 分	600 円
2	3	普通のカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 5 分	400 円
2	3	普通のカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 10 分	500 円
3	1	ブックカフェ	屋内のみ	なし	徒歩 10 分	700 円
3	1	ブックカフェ	屋内のみ	2 時間制	徒歩 15 分	500 円
3	2	普通のカフェ	オープンテラス付き	なし	徒歩 5 分	600 円
3	2	普通のカフェ	屋内のみ	なし	徒歩 0 分	700 円
3	3	ブックカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 10 分	400 円
3	3	普通のカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 0 分	700 円
4	1	ブックカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 15 分	600 円
4	1	ブックカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 5 分	500 円
4	2	普通のカフェ	オープンテラス付き	なし	徒歩 10 分	500 円
4	2	ブックカフェ	屋内のみ	2 時間制	徒歩 5 分	700 円
4	3	ブックカフェ	屋内のみ	2 時間制	徒歩 15 分	500 円
4	3	普通のカフェ	オープンテラス付き	2 時間制	徒歩 5 分	700 円

出典：筆者作成

8. これから、(1)カフェの形態（ブックカフェ/普通のカフェ）、(2)店舗の形態（オープンテラス付き/屋内のみ）、(3)利用時間制限（なし/2 時間制）、(4) よく利用する駅からの距離（徒歩 0 分/5 分/10 分/15 分）、(5) ブレンドコーヒーの価格（400 円/500 円/600 円/700 円）が異なるカフェが二つずつ登場します。行きたい方の番号に○をつけてください。どちらも行きたくなければ「3」に○をつけてください。

	カフェ A	カフェ B	どちらも行きたくない
カフェの形態	ブックカフェ	普通のカフェ	
店舗の形態	オープンテラス付き	屋内のみ	
利用時間制限	なし	なし	
よく利用する駅からの距離	徒歩 15 分	徒歩 10 分	
ブレンドコーヒーの価格	600 円	400 円	

行きたい方に○を→

1	2	3
---	---	---

図 4-1 コンジョイント質問の一例

出典：筆者作成

### 4.3 推定モデル

コンジョイント分析では、人々は財そのものからではなく、その財の属性から効用を得るという考え方に基づいて、財が持つ個々の属性と人々の効用との間の関係を表す効用関数を推定する。ここでは、上記の属性からなるカフェを対象に、その効用関数を次のように定式化する。

$$U = V + \epsilon = (\beta_B BOOK + \beta_O OPEN + \beta_T TIME + \beta_D DIST + \beta_P PRICE) * (1 - NEITHER) + \beta_N NEITHER + \epsilon \quad (4.1)$$

$U$ は回答者があるカフェを選択したとき（あるいはいずれも選択しなかったとき）に得られる効用を表しており、そのうち観察可能な部分を $V$ 、観察できない部分を $\epsilon$ で表す。各変数の定義は表 4-3 に示す通りである。

表 4-3 効用関数に含まれる変数の定義

変数	定義
<i>BOOK</i>	ブックカフェ = 1、普通のカフェ = 0
<i>OPEN</i>	オープンテラス付き = 1、屋内のみ = 0
<i>TIME</i>	2時間制 = 1、制限なし = 0
<i>DIST</i>	よく利用する駅からの距離（徒歩・分）
<i>PRICE</i>	ブレンドコーヒーの価格（円）
<i>NEITHER</i>	どちらも行かない = 1、その他 = 0

出典：筆者作成

ここで、(4.1) 式の観察可能な部分  $V$  に注目する。図 4-1 のような質問において、回答者がカフェ A かカフェ B のいずれかを選択するとき、 $NEITHER = 0$  より、その選択から得られる効用の観察可能な部分  $V$  は次式で表される。

$$V = \beta_B BOOK + \beta_O OPEN + \beta_T TIME + \beta_D DIST + \beta_P PRICE \quad (4.2)$$

一方で「どちらも行かない」を選択するとき、そのときの効用は、 $NEITHER = 1$  より、(4.1) 式から  $V = \beta_N$  となる。したがって、カフェ A、B の各プロファイルに対応する変数の値を (4.2) 式に代入することで、それらのカフェを選択することから得られる効用が表され、それよりも  $\beta_N$  の方が大きければ、その人は「どちらも行かない」を選択すると解釈される。

この式を推定するために、条件付きロジットモデルを用いる。カフェ A と B、そして「どちらを買わない」をそれぞれ A、B、N の記号で表し、それらに対応する  $V$  を  $V_A$ 、 $V_B$ 、 $V_N$  で表す。観察不可能な  $\epsilon$  を、各選択肢と回答者それぞれについて互いに独立なガンベル分布（第一種極値分布）に従う確率変数と仮定するとき、ある選択肢  $k$  ( $k = A, B, N$ ) を選択する確率  $P_k$  は、次のように与えられる。

$$P_k = \frac{\exp(V_k)}{\sum_{j \in J} \exp(V_j)} = \frac{\exp(V_k)}{\exp(V_A) + \exp(V_B) + \exp(V_N)} \quad (4.3)$$

$J$  は選択肢の集合  $\{A, B, N\}$  を、 $j$  はその各要素を表している。この確率を用いて、回答者が各質問で実際に選択した選択肢を選ぶ確率を全て掛け合わせることで尤度関数が作られ、最尤法により各変数の係数パラメータが推定される（寺脇拓ゼミ, 2020）。

#### 4.4 支払意思額の計算

(4.1) 式の効用関数が推定されれば、その観察可能な部分  $V$  を用いて、カフェの属性に対する支払意思額を計算することができる。ここでは一例として、普通のカフェで提供されるコーヒーの価格を基準として、ブックカフェで提供されるコーヒーに対して追加的に支払ってもよいと思う金額を導く。いまあるカフェを選択する状況を考えて ( $NEITHER = 0$ )、ブックカフェ ( $BOOK = 1$ ) から得られる効用  $V_1$  と、普通のカフェ ( $BOOK = 0$ ) から得られる効用  $V_0$  を考える。他の属性とコーヒーの価格がそれぞれ  $OPEN^*$ 、 $TIME^*$ 、 $DIST^*$ 、 $PRICE^*$  で一定であるとき、 $V_1$  と  $V_0$  はそれぞれ次式で表される。

$$V_1 = \beta_B + \beta_O OPEN^* + \beta_T TIME^* + \beta_D DIST^* + \beta_P PRICE^* \quad (4.4)$$

$$V_0 = 0 + \beta_O OPEN^* + \beta_T TIME^* + \beta_D DIST^* + \beta_P PRICE^* \quad (4.5)$$

このとき、 $\beta_B > 0$  ならば  $V_1 > V_0$  である。ブックカフェで提供されるコーヒーに対する追加的な支払意思額は、ブックカフェに行く代わりに上げてよいと思う価格 ( $PRICE$ ) の上昇分を意味する。したがって、以下の (4.4') 式の  $V_1$  が (4.5) 式の  $V_0$  と等しくなる  $\Delta PRICE$  がここでの支払意思額となる。

$$V_1 = \beta_B + \beta_O OPEN^* + \beta_T TIME^* + \beta_D DIST^* + \beta_P (PRICE^* + \Delta PRICE) \quad (4.4')$$

(4.4) 式と (4.5) 式から、 $V_1 = V_0$ を解くことによって、 $\Delta PRICE$ は以下のように表される。

$$\Delta PRICE = -\frac{\beta_B}{\beta_P} \quad (4.6)$$

つまり、この定式化の下では、人々がブックカフェで提供されるコーヒーに対して追加的に支払ってもよいと思う金額は、*BOOK*の係数を*PRICE*の係数で割り、それに $-1$ をかけることで測られる。コーヒーの価格が上昇すればおそらく効用は下がるので、 $\beta_P < 0$ であることより、この金額は正の値をとる。他の特性についても、同様の計算によりそれらの特性を備えたカフェに対する追加的な支払意思額を計測することができる。表 4-4 はその結果をまとめたものである（寺脇拓ゼミ, 2020）。

表 4-4 各特性を備えたカフェで提供されるコーヒーに対する追加的な支払意思額

カフェの特性	支払意思額 (円)
ブックカフェ (ブックカフェではない普通のカフェを基準)	$-\beta_B/\beta_P$
オープンテラス付きのカフェ (屋内のみのカフェを基準)	$-\beta_O/\beta_P$
2時間制のあるカフェ (利用時間制限がないカフェを基準)	$-\beta_T/\beta_P$

出典：筆者作成

なお、「2時間制のあるカフェ」については、おそらく利用時間制限がないカフェよりも好まれないことから、 $\beta_T < 0$ となり、その支払意思額はマイナスになるものと予想される。

一方で、*PRICE*の代わりに*DIST*を使って上記の展開を行えば、各特性を備えたカフェを訪れる代わりに追加的に犠牲しても良いと思う徒歩での移動時間が導かれる。ここではこれを「犠牲移動時間」(分)と呼ぶ。同様の考え方により、この時間は表 4-5 のように計算される。

表 4-5 各特性を備えたカフェを訪れる代わりに追加的に犠牲にしてよいと思う移動時間

カフェの特性	犠牲移動時間 (分)
ブックカフェ (ブックカフェではない普通のカフェを基準)	$-\beta_B/\beta_D$
オープンテラス付きのカフェ (屋内のみのカフェを基準)	$-\beta_O/\beta_D$
2時間制のあるカフェ (利用時間制限がないカフェを基準)	$-\beta_T/\beta_D$

出典：筆者作成

コーヒーの価格と同様に、駅からの距離が長くなり、移動時間が増加すればおそらく効用は

下がるため、 $\beta_D < 0$ となることが期待される。

#### 4.5 トラベルコスト法

当活動では、コンジョイント分析により人々のブックカフェに対する選好を分析すると共に、トラベルコスト法を用いて、当団体が開催したイベント「渚と森の青空ブックカフェ」が生み出す社会便益を計測することにも取り組む。トラベルコスト法は、評価対象となるレクリエーション地までの旅行費用とそこへの個人の訪問回数、あるいは地域からの訪問率（その地域に住む人の総数に占める訪問者の割合）との間にある負の相関を利用して、その場所に対する需要関数を推定することで、そこで訪問者がレクリエーションを楽しむことから得られる満足度を金銭的に評価する手法である（栗山・馬奈木, 2016）。個人の訪問回数を活用するものを個人トラベルコスト法と呼び、地域からの訪問率を使うものをゾーン（地域）トラベルコスト法と呼ぶ。今回は、特定のイベントを評価対象とするものであり、訪問回数は全ての人について1回か多くても2回となるため、個人トラベルコスト法では旅行費用が違って訪問回数に変化が生まれにくい。そこで本分析では、各地域からの訪問者の割合を使うゾーントラベルコスト法を採用する。トラベルコスト法の応用研究はすでに膨大な数があり、主に自然公園がもつレクリエーション機能の評価に使われるが、観光地やイベントがもたらす便益の計測にも応用されている（青山他, 2003; 寺脇拓ゼミ, 2018）。

図 4-2 はゾーントラベルコスト法の理論を図式化したものである。ある場所でレクリエーションを楽しむ（湖で釣りを楽しむ、イベントに参加するなど）ことが無料だったとしても、それに対して人々は全く犠牲を払わないわけではない。少なくともその場所を訪れるためにガソリン代や電車代などの旅行費用を支払う必要があるだろう。一般には、その場所から遠く離れた地域、すなわち旅行費用が高い地域からは訪れる人が少なく、近い地域、つまり旅行費用が低い地域からはより多くの人を訪れることが予想される。これは価格が高ければあまり購入されず、低ければたくさん購入されるという「需要法則」に他ならない。つまり、旅行費用はその場所でレクリエーションを楽しむための価格、訪問率はそのレクリエーションの購入量とみなすことができ、その関係は図 4-2 のように右下がりの曲線で描かれる。それはまさにその場所でのレクリエーションに対する需要曲線である。経済学の理論では、需要曲線の下側の面積は、ある一定量の財の消費から得られる満足度を金銭的に評価した「便益」を表す。そこから購入費用を差し引いた残りが、その財の消費から得られる純便益となる。これを消費者余剰という。たとえば旅行費用が図の $TC^*$ の地域からはこのサイトに $VR^*$ の割合の人が訪れることになり、その訪問から得られる（その地域に住む人一人当

たりの) 純便益は図の $CS^*$ で表される。

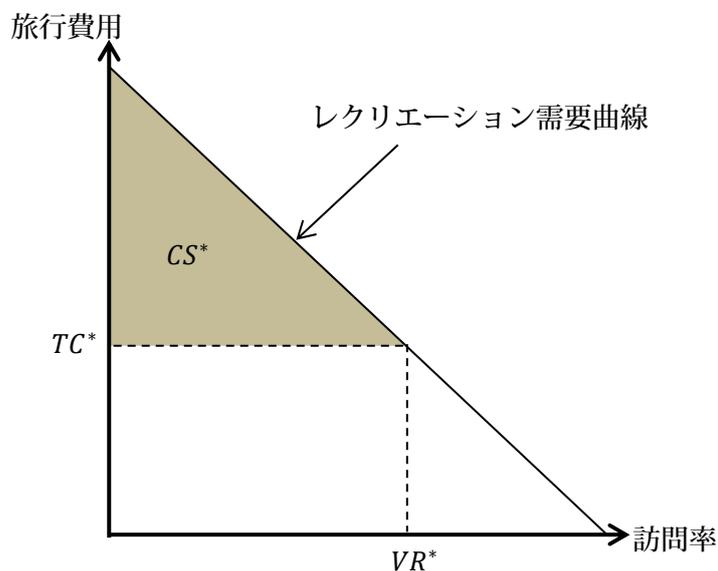


図 4-2 トラベルコスト法の考え方

出典：筆者作成

ゾーントラベルコスト法の実践では、図 4-2 のレクリエーション需要曲線を推定するために、そのレクリエーションサイトで、訪問者がどこから来たのかを尋ねるアンケート調査を実施する。その情報をもとに各地域からの訪問率と旅行費用を計算した上で、それらのデータからレクリエーション需要関数を推定し、それをを用いて消費者余剰を計算する(寺脇拓ゼミ, 2018)。本調査においても、当イベントに対する需要関数を推定するため、利用者の居住地を尋ねる項目を調査票に含めた。

## 5. 単純集計結果

### 5.1 調査概要

上述の通り、当活動は、ブックカフェに対する選好を分析すると共に、当イベントがもたらす社会便益を計測するために、青空ブックカフェの利用者を対象にアンケート調査を実施した。調査票は、イベント開催場所となる大津湖岸なぎさ公園への訪問に関する質問(問 1～問 3)、ブックカフェの利用実態に関する質問(問 4～問 7)、ブックカフェに対す

る選好の分析に使うコンジョイント質問（問 8）、個人属性を問う質問から構成される（表 5-1）。標本サイズは 72 となった。ここでは、問 8 のコンジョイント質問を除く全ての質問の単純集計結果を考察する。コンジョイント質問のデータは、第 4 章で説明したモデルにより、次章で分析される。

表 5-1 質問内容一覧

番号	質問内容
問 1	大津湖岸なぎさ公園までの交通手段
問 2	大津湖岸なぎさ公園への訪問目的
問 3	大津湖岸なぎさ公園への訪問経験
問 4	ブックカフェの利用経験
問 5	ブックカフェの利用時間（利用したことがある人のみ）
問 6	イベント後のブックカフェの利用可能性（利用したことがない人のみ）
問 7	オープンテラス付きブックカフェと屋内のみのブックカフェに対する選好
問 8	コンジョイント質問
個人属性	性別、年代、居住地、最寄駅、職業、イベントに対する評価

出典：筆者作成

## 5.2 集計結果

### (1) 回答者属性

まず、当イベント参加者の社会経済属性を整理する。今回、青空ブックカフェ利用者にアンケート調査への協力を依頼したが、断る人はほとんどいなかったため、ここでの集計結果は概ねイベント参加者全体の属性を反映する。なお、18 歳未満の利用者については、調査対象から外すものとした。

第一に、青空ブックカフェ利用者は女性の方が多かった。表 5-2 に示されるように、女性は 51.4%、男性は 40.3%を占める結果となった。トゥ・ディファクトが 2014 年に 20 代から 40 代の男女 300 人を対象に行った調査によれば、カフェなど飲食店内で読書をする と答えた回答者は、全ての年代について女性が男性を大きく上回った (ITmedia, 2015)。本結果は、こうした女性には男性よりもカフェで読書をする人が多い傾向を反映するものだと いえる。

表 5-2 性別

	実数	%
女性	37	51.4%
男性	29	40.3%
その他	0	0.0%
無回答	6	8.3%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

第二に、利用者の年代はほぼ均一であった。表 5-3 からわかるように、母数が少ない 10 代と 70 歳以上を除いて、20 代から 60 代までの回答者の割合にはほとんど差が見られない。このことから、今回のデータは、年代については偏りが無いものとして評価される。

表 5-3 年代

	実数	%
10 代	3	4.2%
20 代	11	15.3%
30 代	12	16.7%
40 代	14	19.4%
50 代	11	15.3%
60 代	11	15.3%
70 歳以上	4	5.6%
無回答	6	8.3%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

第三に、利用者の職業については、正規の職員・従業員（派遣社員を含む）が 31.9% と最も多く、次いでパート・アルバイト、専業主婦（夫）がそれぞれ 16.7% を占めた（表 5-4）。週末ということもあり、休日に家族で訪れたケースが多くみられた。

表 5-4 職業

	実数	%
正規の職員・従業員（派遣社員を含む）	23	31.9%
パート・アルバイト	12	16.7%
会社役員	0	0.0%
自営業	5	6.9%
学生	8	11.1%
専業主婦（夫）	12	16.7%
無職	5	6.9%
その他	1	1.4%
無回答	6	8.3%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

第四に、琵琶湖の畔でのイベントであり、滋賀の古書店が集まることから、利用者の多くは滋賀県内からの訪問者であった（表 5-5）。中でも開催地となった大津市からの訪問者が多く、半数を占める結果となった。滋賀県からの訪問者が 69.4%、次いで隣接する京都府からの訪問者が 13.9%を占めており、滋賀と京都で全体の 8 割を超えている。カフェを楽しむという身近なレジャーイベントであることから、幅広いエリアのサンプルを得ることはできなかった。

表 5-5 居住地

	実数	%
<b>滋賀県</b>	<b>50</b>	<b>69.4%</b>
大津市	36	50.0%
草津市	4	5.6%
彦根市	4	5.6%
甲賀市	3	4.2%
近江八幡市	2	2.8%
野洲市	1	1.4%
<b>京都府</b>	<b>10</b>	<b>13.9%</b>
京都市	9	12.5%
長岡市	1	1.4%
<b>奈良県</b>	<b>3</b>	<b>4.2%</b>
奈良市	3	4.2%
<b>愛知県</b>	<b>2</b>	<b>2.8%</b>
名古屋市	2	2.8%
<b>無回答</b>	<b>7</b>	<b>9.7%</b>
合計	65	100.0%

出典：筆者作成

## (2) 大津湖岸なぎさ公園の利用実態とイベントに対する評価

次に、イベント会場となる大津湖岸なぎさ公園の利用実態を整理し、そこでの当イベントの開催に対する満足度を評価する。

第一に、大津湖岸なぎさ公園への交通手段としては、「自動車・バイク」をあげる人が多かった。表 5-6 に示されるように、大津湖岸なぎさ公園を「自動車・バイク」で訪れた人が 40.2%と最も多く、次いで「徒歩・自転車」が 37.5%を占め、「電車」は 22.3%にとどまった。第 3 章で述べたように、当イベントの会場は、JR 大津駅から徒歩 20 分、JR 膳所駅からは徒歩 15 分の位置にあり、電車の駅を降りてすぐの場所にあるわけではない。「自動車・バイク」による訪問者が最も多いという結果は、この電車でのアクセスの悪さを反映する。また、「徒歩・自転車」による訪問者が比較的多いという結果から、大津湖岸なぎさ公園は多くの地元の人々が利用する場所だと言える。

表 5-6 大津湖岸なぎさ公園までの交通手段

	実数	%
電車	16	22.3%
自動車・バイク	29	40.2%
路線バス	0	0.0%
タクシー	0	0.0%
徒歩・自転車	27	37.5%
その他	0	0.0%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

第二に、利用者の多くは、すでに大津湖岸なぎさ公園に訪れた経験をもつ人々であった。表 5-7 からわかるように、訪問経験がある人は全体の 8 割を超えていた。上記の通り、大津湖岸なぎさ公園は、多くの地元の人々に利用される公園であることが考えられ、この結果もそれと整合する。この結果から、本サンプルには大津湖岸なぎさ公園を訪れたことがあるリピーターが多く、ブックカフェに対する選好を分析する上で、初めてその場所を訪れることで受ける刺激が引き起こすバイアスは小さいものと考えられる。

表 5-7 大津湖岸なぎさ公園の訪問経験

	実数	%
訪れたことがある	58	80.6%
訪れたことはない	14	19.4%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

第三に、当イベントの参加者の約半数が、そのイベントを目的に大津なぎさ公園を訪れていた。表 5-8 は、青空ブックカフェ利用者に当日の訪問目的を制限なしの複数回答で尋ねた結果である。その目的として当イベントをあげる人が最も多かったが、その割合は 55.6%にとどまった。これは、当日偶然このイベントの開催を知り、予定なく青空ブックカフェを利用した人が一定数いたことを表している。

表 5-8 大津湖岸なぎさ公園の訪問目的（制限なしの複数回答）

	実数	%
青空ブックカフェ	40	55.6%
なぎさのテラス	18	25.0%
散策・運動	27	37.5%
釣り	0	0.0%
仕事・学習	4	5.6%
その他	8	11.1%
有効回答数	72	100.0%

出典：筆者作成

第四に、当イベントは利用者に高く評価されるものであったといえる。表 5-9 は、今回のイベントに対する満足度を「とてもよかった」を 1、「全くよくなかった」を 5 として 5 段階で評点付けしてもらった結果である。この表に示されるように、7 割近くの人が 1、2 の点数をつけ、5 を付けた人は 3 人（4.2%）しかいなかった<sup>9</sup>。

<sup>9</sup> 4、5 を付けた人の中で、自由回答欄では当イベントを高く評価すると記入した人も複数見られた。一部の人は、満足度の数値の意味を逆に認識したかもしれない。

表 5-9 渚と森のブックカフェに対する評価

	実数	%
1 (とてもよかった)	30	41.7%
2	19	26.4%
3	5	6.9%
4	8	11.1%
5 (全くよくなかった)	3	4.2%
無回答	7	9.7%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

### (3) ブックカフェの利用実態と今後の普及可能性

最後に、当イベント参加者のブックカフェの利用状況と今後のブックカフェの普及可能性について、単純集計の結果から導かれる傾向を考察する。

第一に、ブックカフェを利用したことがない人の方が利用したことがある人よりも多かった。表 5-10 に示されるように、ブックカフェを「利用したことはない」人が 59.7%、「利用したことがある」人が 40.3%を占めており、前者が後者を上回る結果となった。とはいえ、五人に二人はブックカフェを利用した経験があることになり、滋賀県におけるブックカフェの少なさを考えれば、この割合は比較的高いようにも見える。もともとブックカフェに関心がある人が当イベントを知って訪問したと考えることが適切かもしれない。

表 5-10 ブックカフェの利用経験

	実数	%
利用したことがある	29	40.3%
利用したことはない	43	59.7%
合計	72	100.0%

第二に、ブックカフェの滞在時間は、平均値で約 1.4 時間、中央値で 1 時間であった。これらは、ブックカフェを「利用したことがある」と回答した人に限定して計算された数値である。なお、最短時間は 18 分、最長時間は 3 時間であった。

第三に、当イベントにより、これまでにブックカフェを利用したことがなかった人が、今後ブックカフェを利用する可能性が高まった。表 5-11 は、ブックカフェを「利用したことはない」と回答した 43 人を対象に、今後のブックカフェの利用意向を質問した結果である。

青空ブックカフェの利用を踏まえて答えるよう依頼したところ、95%を超える人が、今後もブックカフェを「利用しようと思う」と回答した。このことから、当イベントは、人々をブックカフェに足を向かわせることに貢献するものであったと評価される。

表 5-11 今後のブックカフェの利用意向

	実数	%
利用しようと思う	41	95.3%
利用しようとは思わない	2	4.7%
合計	43	100.0%

第四に、「オープンテラス付きのブックカフェ」は、「屋内のみのブックカフェ」よりも選好されることが示された。表 5-12 に示されるように、「オープンテラス付きのブックカフェ」と「屋内のみのブックカフェ」とを比較するとき、「オープンテラス付きのブックカフェ」を選ぶ人は半数を占めたのに対して、「屋内のみのブックカフェ」を選んだ人は僅か4.2%であった。「オープンテラス付きのブックカフェ」は、その開放感に加えて、新型コロナウイルスの感染リスクを下げるメリットをもつことから、人々はその環境を評価したものと予想される。

表 5-12 ブックカフェの店舗形態に対する選好

	実数	%
オープンテラス付きのブックカフェ	36	50.0%
屋内のみのブックカフェ	3	4.2%
どちらでもよい	33	45.8%
どちらも行きたくない	0	0.0%
合計	72	100.0%

出典：筆者作成

## 6. ブックカフェに対する選好と支払意思額

### 6.1 カフェの属性に関する効用関数の推定結果

第4章で述べたコンジョイント質問の回答データと、条件付きロジットモデルを用いて、

(4.1) 式のカフェ属性に関する効用関数を推定した。表 6.1 に示されるように、全ての変数の係数は、p 値が 0.01 を下回ったことから、1%水準で有意だといえる。推定された係数の符号もまた合理的である。BOOK、OPENの係数は正となっており、人々は普通のカフェよりもブックカフェを、屋内のみのカフェよりもオープンテラスがあるカフェを選好する。一方でTIMEの係数は負となり、人々は2時間制のカフェよりも時間制限ないカフェを選好する。DIST、PRICEの係数もまた負であり、駅からの距離が遠くなるほど、そしてコーヒーの価格が上がるほど効用が下がる自然な傾向を表している。

表 6-1 効用関数の推定結果 (主効果モデル)

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
BOOK (ブックカフェ)	0.9971	3.6105	0.0003
OPEN (オープンテラス付き)	1.4144	5.0282	0.0000
TIME (2時間制)	-0.8795	-3.3503	0.0008
DIST (駅からの距離)	-0.1407	-4.2321	0.0000
PRICE (コーヒーの価格)	-0.0071	-5.3317	0.0000
NEITHER (どちらも行かない)	-7.5173	-7.3845	0.0000
対数尤度	-117.88		
AIC	247.77		
標本サイズ	192		

出典：筆者作成

## 6.2 ブックカフェに対する支払意思額

推定された効用関数を用いて、表 4-4 に示した計算方法に従い、まずはブックカフェで提供されるコーヒーに対して人々が追加的に支払ってもよいと思う金額を計測した。その結果、ブックカフェで提供されるコーヒーに対する追加的な支払意思額は 140 円となった (表 6-2)。これは、ブックカフェに行く代わりに上がってもよいと思うコーヒーの価格を意味しており、ブックカフェではない普通のカフェと、その普通のカフェよりも高い価格でコーヒーが提供されるブックカフェがあるとき、人々は、そのコーヒーの価格差が約 140 円までであれば、ブックカフェを選択することを含意する。むあ文庫の店主の方によれば、その店舗ではブレンドコーヒーが 600 円で販売されており、通常のカフェで提供されるコーヒーよりも少し高めの価格設定を行っているとのことであった。DONGREE BOOKS & STORY CAFÉ と Book café すくらむのコーヒーの価格の平均値 450 円を通常価格とみなせば、それらの価格差 150 円は概ね利用者に受け入れられる金額だと判断される。

表 6-2 は、他の特性を備えたカフェで提供されるコーヒーに対する追加的な支払意思額も示している。今回最も高い評価が得られたのは、ブックカフェではなく、オープンテラス付きのカフェであった。そのカフェに行く代わりに上がってもよいと思うコーヒーの価格は、表 4-4 に従って 199 円と計測された。一方で、2 時間制のカフェに行く代わりに上がってもよいと思うコーヒーの価格は -124 円であった。これは、逆に言えば、2 時間制のカフェを基準として、人々はその制限がないカフェで提供されるコーヒーに対して追加的に 124 円支払う意思を持つことを意味する。加えて、たとえブックカフェでも、2 時間制の制限がある場合には、人々のコーヒーに対する追加的な支払意思額は 140 円 - 124 円で、わずかに 16 円ということになる。

表 6-2 支払意思額の推定結果

評価対象	支払意思額
ブックカフェに行く代わりに上がってもよいと思うコーヒーの価格	140 円
オープンテラス付きカフェに行く代わりに上がってもよいと思うコーヒーの価格	199 円
2 時間制のカフェに行く代わりに上がってもよいと思うコーヒーの価格	-124 円

出典：筆者作成

表 6-3 は、表 4-5 に従って計算された、各特性を持つカフェに行くために犠牲にしても良いと思う時間を示す。ブックカフェについては、そこに行く代わりに犠牲にしてもよいと思う徒歩での移動時間は約 7 分であった。これはつまり、ブックカフェではない普通のカフェと、その普通のカフェよりも駅から離れた場所にあるブックカフェがあるとき、人々は、徒歩での移動時間の差が約 7 分までであれば、ブックカフェを選択することを意味する。なお、効用関数を線形で定式化していることから、特性間の犠牲移動時間の大小関係は支払意思額のそれと同じである。これらの情報は、これからブックカフェを始めようとする経営者にとって、その出店場所を考える上で有益な情報となるだろう。

表 6-3 犠牲移動時間の推定結果

評価対象	犠牲移動時間
ブックカフェに行く代わりに犠牲にしてもよいと思う徒歩での移動時間	7.1 分
オープンテラス付きカフェに行く代わりに犠牲にしてもよいと思う徒歩での移動時間	10.1 分
2 時間制のカフェに行く代わりに犠牲にしてもよいと思う徒歩での移動時間	-6.3 分

出典：筆者作成

### 6.3 ブックカフェとオープンテラスの相殺効果の存在

次に、(4.1) 式の効用関数に *BOOK* と *OPEN* の交差項を加えて、モデルの再推定を行った。これは、ブックカフェにオープンテラス席が設置されることで、互いの良さが増幅され、それが人々の効用に相乗効果を与えるのか、それとも互いの良さを打ち消しあい、効用に相殺効果を与えるのかをみるためである。(4.1) 式の観察可能な部分 *V* にのみ注目すると、このモデルは次のように拡張される。

$$V = \beta_B BOOK + \beta_O OPEN + \beta_T TIME + \beta_D DIST + \beta_P PRICE + \gamma_{BO} BOOK \times OPEN \quad (6.1)$$

ここで、ブックカフェから得られる効用をみるために、便宜上 *BOOK* を連続変数とみなして、*V* を *BOOK* で微分すると、次式が得られる。

$$\frac{\partial V}{\partial BOOK} = \beta_B + \gamma_{BO} OPEN \quad (6.2)$$

*OPEN* はそのカフェがオープンテラス付きであれば 1、なければ 0 をとる変数なので、もし  $\gamma_{BO}$  が正であるならば、ブックカフェにオープンテラス席が設置されることで、人々のブックカフェから得られる効用はより大きくなることになる。つまりそれは、ブックカフェとオープンテラスとの間に相乗効果があることを意味する。逆に、もし  $\gamma_{BO}$  が負であるならば、ブックカフェにオープンテラス席が設置されることで、人々のブックカフェから得られる効用は減少することになる。それは、ブックカフェとオープンテラスとの間に相殺効果があることを意味する。第 1 章で述べたように、本研究では「オープンテラス付きのブックカフェは屋内のみのブックカフェよりも選好される」という仮説を立てており、それは  $\gamma_{BO}$  が正であることを含意する。

表 6-4 は、この拡張されたモデルの推定結果である。*BOOK* × *OPEN* の係数に注目すると、それは負の値を示していることがわかる。p 値は 0.1072 と 0.1 を超えているものの、0.1 に極めて近い値であることから、ここでは、本研究の仮説とは逆に、ブックカフェとオープンテラスの間には相「殺」効果があることを結論付ける。この傾向は、屋外でカフェを楽しむことの快適さは必ずしもブックカフェには当てはまらないことを意味する。木下(2002)は、青山表参道エリアのカフェでアンケート調査を行い、オープンカフェのテラス席に対する利用者の評価を調査した。その結果、「リラックス・休憩できそう」「自然を感じ心地よい」など、ほぼすべての項目でテラス席をポジティブに評価する傾向が示されたが、「読書・仕

事・勉強ができそう」の項目については、どちらかといえばネガティブな評価が示された。本分析結果は、この知見と整合するものであり、カフェ属性としての「オープンテラス付き」自体は利用者に高く評価されるが、外の騒音などから、読書をする場所としては、テラス席は必ずしも評価されない事実を浮き彫りにする。

表 6-4 効用関数の推定結果 (BOOK と OPEN の交差項を含む)

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>BOOK</i> (ブックカフェ)	1.9340	2.9508	0.0032
<i>OPEN</i> (オープンテラス付き)	2.1861	3.7530	0.0002
<i>TIME</i> (2 時間制)	-0.8905	-3.3752	0.0007
<i>DIST</i> (駅からの距離)	-0.1426	-4.1980	0.0000
<i>PRICE</i> (コーヒーの価格)	-0.0077	-5.5196	0.0000
<i>NEITHER</i> (どちらも行かない)	-7.3007	-7.1971	0.0000
<i>BOOK</i> × <i>OPEN</i>	-1.6113	-1.6111	0.1072
対数尤度	-116.51		
AIC	247.02		
標本サイズ	192		

出典：筆者作成

第 4 章で説明した手順に従って、(6.1) 式の定式化の下で、オープンテラス付きのブックカフェ ( $BOOK = 1$ ,  $OPEN = 1$ ) で提供されるコーヒーに対する追加的な支払意思額を導くと、 $-(\beta_B + \gamma_{BO})/\beta_P$  となる。表 6-4 の推定値を使ってこの金額を計算すれば、その値は約 327 円となる。一方で表 6-2 から、 $BOOK$  と  $OPEN$  の交差項、すなわちブックカフェとオープンテラスの相殺効果が無視した状況では、その支払意思額は  $140 + 199 = 339$  円と計測され、過大評価となることがわかる。ブックカフェ、オープンテラス付きという属性そのものからは、人々は個別に高い効用を得るため、両者を組み合わせたカフェに対する評価は高くなるが、そこには相殺効果が存在し、人々はオープンテラスを「読書をする場所」としては評価していないことが結論付けられる。

#### 6.4 ブックカフェに対する選好と個人属性との関係

最後に、個人間の選好の多様性を考慮し、ブックカフェに対する選好が個人属性によってどのように変化するのか、言い換えればどのような人がブックカフェを高く評価するのかを見極めるため、ブックカフェ属性 ( $BOOK$ ) と個人属性との交差項を作り、それらを (4.8) 式に含めて、効用関数の再推定を行った。交差項を作るために使われた変数は表 6-5 の通

りである。

表 6-5 交差項を作るのに使われた変数の定義

変数	定義
<i>EXP</i>	ブックカフェに行ったことがある = 1、ない = 0
<i>FEMALE</i>	女性 = 1、男性 = 0
<i>AGE</i>	年代
<i>SHIGA</i>	滋賀県在住者 = 1、その他 = 0
<i>JOB</i>	恒常所得あり（正規の職員・従業員） = 1、その他 = 0

出典：筆者作成

表 6-6 は、この交差効果モデルの推定結果である。交差項の中で有意な傾向を示したものは、*BOOK* × *AGE* である。この交差項の符号は正であることから、年代が高くなるほど、ブックカフェから得られる効用は大きくなるといえる。この結果から、ブックカフェの利用者を増やすためには、比較的年代の高い層をターゲットにアピールすることが効果的だと判断される。

表 6-6 個人属性との交差項を含めた効用関数の推定結果

変数	係数推定値	t 統計量	p 値
<i>BOOK</i> (ブックカフェ)	1.2416	1.1173	0.2639
<i>OPEN</i> (オープンテラス付き)	2.1777	3.7048	0.0002
<i>TIME</i> (2 時間制)	-0.8893	-3.3124	0.0009
<i>DIST</i> (駅からの距離)	-0.1429	-4.1416	0.0000
<i>PRICE</i> (コーヒーの価格)	-0.0077	-5.5023	0.0000
<i>NEITHER</i> (どちらも行かない)	-7.3660	-7.1619	0.0000
<i>BOOK</i> (ブックカフェ) との交差項			
× <i>OPEN</i> (オープンテラス付き)	-1.8207	-1.7551	0.0792
× <i>EXP</i> (ブックカフェ経験ダミー)	-0.3065	-0.6349	0.5255
× <i>FEMALE</i> (女性ダミー)	-0.1283	-0.2212	0.8249
× <i>AGE</i> (年代)	0.3136	1.9665	0.0492
× <i>SHIGA</i> (滋賀県在住ダミー)	-0.4737	-0.8185	0.4131
× <i>JOB</i> (恒常所得ダミー)	0.4014	0.6808	0.4960
対数尤度		-113.95	
AIC		251.90	
標本サイズ		192	

出典：筆者作成

## 7. 渚と森の青空ブックカフェがもたらす社会便益の計測

### 7.1 旅行費用と訪問率

第4章で述べたように、ゾーントラベルコスト法による分析では、レクリエーション需要関数を推定するために、まずは各地域からの旅行費用と訪問率を計算する必要がある。本研究では、表5-8に示される、大津湖岸なぎさ公園への訪問目的に青空ブックカフェが含まれる40人のみを対象とし、それらの人々の居住地をもとにゾーンを決定した。滋賀県内の全市町村と、滋賀県に隣接する京都府の市町村のうち実際に訪問した人の居住市町村（京都市と長岡京市）をゾーンに設定した結果、その数は21となった。なお、愛知県名古屋市と奈良県奈良市から訪れた人も含まれたが、それらは外れ値としてサンプルから除外した。

旅行費用については、表5-6で示されたように、大津湖岸なぎさ公園への交通手段としては「自動車・バイク」を選択する人が最も多かったことから、各市町村役場からイベント会場までの往復のガソリン代とその移動にかかる時間費用の合計を用いた。地域*i*の旅行費用 $TC_i$ は次式により計算される。

$$TC_i = \left( \frac{d_i}{c} \times g_i + h_i \right) \times \frac{1}{m} + w_i \times t_i \times l$$

ここで $d_i$ は地域*i*の各市町村役場からイベント会場までの往復の移動距離 (km)、 $c$ は自動車の燃費(km/l)、 $g_i$ は地域*i*のガソリン価格(円/l)、 $h_i$ は地域*i*からの往復の高速道路料金(円)、 $m$ はドライバーを含めた同乗者の数、 $w_i$ は地域*i*の賃金率 (円/時間)、 $t_i$ は地域*i*からの往復の移動時間 (時間)、 $l$ は時間費用の割引率を表している。移動距離 $d_i$ と移動時間 $t_i$ 、および高速道路料金 $h_i$ については、「Mapfan」(<https://mapfan.com/>)の「ルート検索」を用いて、2020年11月7日(土)の12時、大津湖岸なぎさ公園内の打出の森を基準に計算した。高速道路料金はETCの割引価格を用いた。自動車燃費 $c$ は、国土交通省の「自動車燃費一覧」より、2018年度のガソリン乗用車のJC08モード燃費平均値である22.0km/lを使用した<sup>10</sup>。ガソリン価格 $g_i$ については、石油情報センター(<https://oil-info.ieej.or.jp/>)より2020年11月7日に調査された各府県のレギュラーガソリン現金価格を用いた。同乗者の数 $m$ については、アンケートから得られた数の平均値2.27を用いた。賃金率 $w_i$ については、厚生

<sup>10</sup> 国土交通省「自動車燃費一覧(令和2年3月)」

([https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_fr10\\_000044.html](https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_fr10_000044.html)) 参照日：2020年12月19日

労働省の「賃金構造基本統計調査」より、都道府県別のデータを使用した<sup>11</sup>。それは「決まって支給する現金給与額」を12倍し、それに「年間賞与その他特別給与額」を加えたものを、「所定内実労働時間数」と「超過実労働時間数」を合計し、それを12倍したもので割ることにより求められる。時間費用の計算においては、多くの先行研究が用いた1/3の割引を行った（佐藤・粕淵, 2005）。

一方で、地域*i*の訪問率 $VR_i$ は次式により計算される。

$$VR_i = \frac{\frac{S_i}{S_a} \times V_a}{Pop_i}$$

ここで $S_a$ は当イベントを目的に訪れた人の数、 $S_i$ はその中で地域*i*から訪れた人の数、 $V_a$ はイベントに訪れる人の総数、 $Pop_i$ は地域*i*の15歳以上人口を表している。上述の通り、今回の調査において、大津湖岸なぎさ公園への訪問目的に青空ブックカフェが含まれる人は40人であったが、そのうち二人は居住地の質問に回答しなかったため、この $S_a$ は38となる。 $V_a$ については、実質的には結果に影響を及ぼさないが、暫定的に毎週末にこのイベントが開かれ、毎回40人が訪れるものとして、 $40 \times 52 = 2080$ 人とした。 $Pop_i$ については、e-Stat (<https://www.e-stat.go.jp/>)より2020年6月1日時点の都道府県別人口推計値を入手し、それを用いた。

図7-1は各地域の旅行費用と訪問率との関係を散布図で示したものである。両者の間には概ね負の相関があることが読み取られ、需要法則を満たすものと期待される。

---

<sup>11</sup> 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/chinginkouzou.html>) 参照日：2020年12月19日

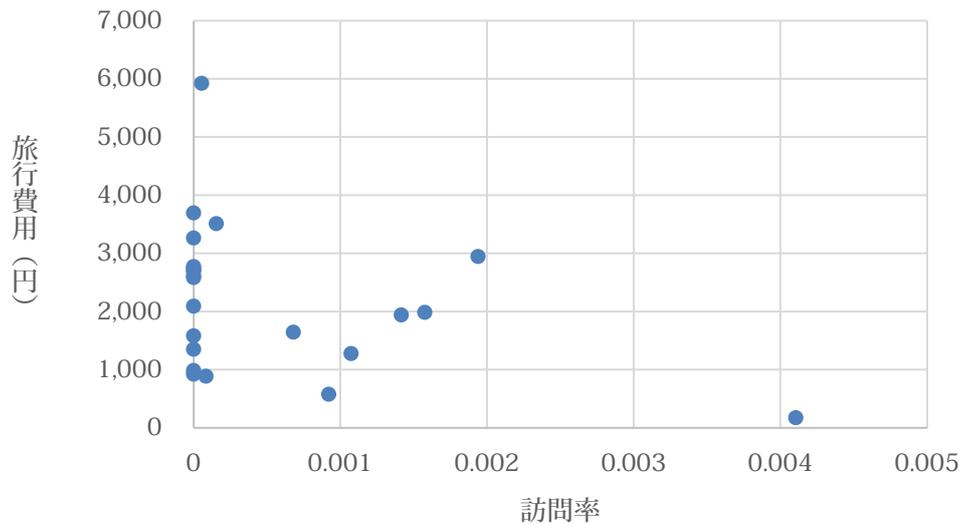


図 7-1 旅行費用と訪問率の関係

出典：筆者作成

## 7.2 需要関数の推定結果

上述したデータを用いて、青空ブックカフェイベントに対するレクリエーション需要関数を推定する。訪問率を $VR$ 、旅行費用を $TC$ とすれば、レクリエーション需要関数は、一般的な関数の記号 $f$ を用いて次のように表される。

$$VR = f(TC) \quad (7.1)$$

図 7-1 を見る限り、この関数は線形では表されない。そこで本分析では、次の (7.2) 式のようにこの需要関数を片対数モデルで定式化する。

$$\ln VR = \alpha + \beta TC \quad (7.2)$$

$\alpha$ は定数項、 $\beta$ は旅行費用の係数パラメータを表す。

(7.2) 式のモデルの下で、最小二乗法によりレクリエーション需要関数を推定した。その推定結果は、表 7-1 のように表される。

表 7-1 青空ブックカフェイベントに対する需要関数の推定結果

変数	係数推定値	t 値	p 値
定数項	-8.722	-3.224	0.004
TC (旅行費用)	-0.002694	-2.172	0.043
決定係数	0.1989		
自由度調整済み決定係数	0.1567		
標本サイズ	21		

出典：筆者作成

定数項とTC (旅行費用) の係数はいずれも 5%水準で有意となった。TCの係数は負の値を示しており、それはこのレクリエーション需要曲線が右下がりに描かれることを意味する。図 7-2 は推定された需要関数を図示したものである。

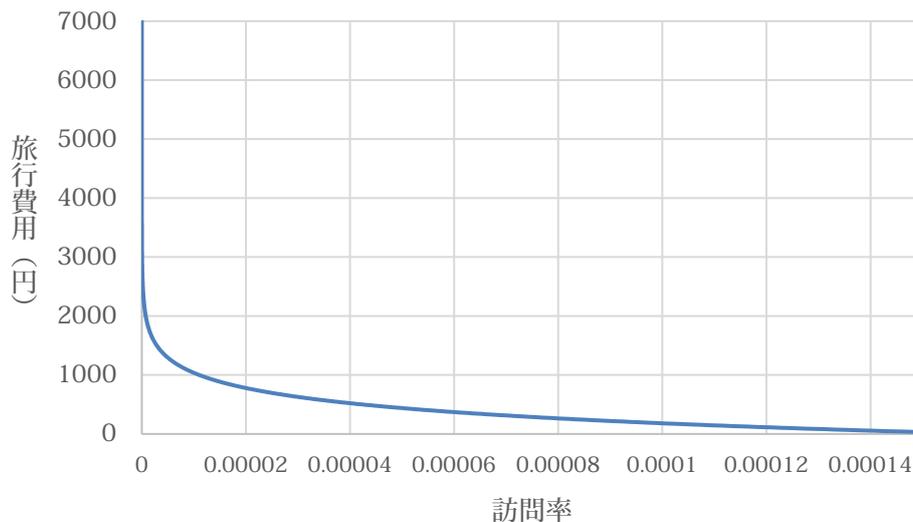


図 7-2 推定された需要曲線

出典：筆者作成

### 7.3 イベントがもたらす社会便益

次に、推定された需要関数から消費者余剰を計算する。(7.2) 式を変形すると以下の式が得られる。

$$VR = e^{\alpha+\beta TC} \quad (7.3)$$

ここでレクリエーション地までの旅行費用が $TC_i$ である地域 $i$ を考える。この地域から訪れる人の、その地域一人当たりの消費者余剰 $CS_i$ は、次のように表される。

$$CS_i = \int_{TC_i}^{\infty} e^{\alpha+\beta TC} dTC = -\frac{1}{\beta} e^{\alpha+\beta TC_i} \quad (7.4)$$

一方で、地域 $i$ の訪問率（地域一人当たりの訪問回数）は $VR = e^{\alpha+\beta TC_i}$ で表される。従って、この地域からの訪問 1 回あたりの消費者余剰は、消費者余剰 $CS_i$ を訪問率 $e^{\alpha+\beta TC_i}$ で割ることによって求められる。それは以下の式で表される。

$$\frac{CS_i}{e^{\alpha+\beta TC_i}} = -\frac{1}{\beta} \quad (7.5)$$

これは $TC$ の値に依存しない。従って、(7.2) 式の定式化のもとでは、すべての地域からの訪問一回あたりの消費者余剰は $-1/\beta$ で均一となり、対象となるレクリエーション地がもたらす総便益 $CS_T$ は、

$$CS_T = -\frac{1}{\beta} \times V_a \quad (7.6)$$

で表すことができる。

(7.6) 式を用いて、当イベントに訪れた人々が青空ブックカフェの体験から得た便益を計算しよう。表 7-1 より、レクリエーション需要関数の $TC$ の係数推定値は $-0.002694$  であることから、訪問 1 回当たりの便益は、その逆数からマイナスをとって約 371 円と推定される。これに今回のイベント参加者の総数 40 人をかけることにより、この二日間のイベントがもたらす便益の総額が計算される。その金額は  $371 \times 40 = 1$  万 4840 円となる。なお、実際には当イベントの開催を知らずに、あるいはその参加を目的とせずに大津湖岸なぎさ公園を訪れ、青空ブックカフェを利用した人もいるため、この数値は便益の下限值として解釈される。第 3 章で述べたように、子供も含む参加者の総数は 109 名であり、アンケートの回答者数は 72 名であった。仮に、当イベントが毎週末に開催されるものとし、毎回二

日間で 80 人の参加があったとすれば、この青空ブックカフェがもたらす年間の総便益は約 154 万円と予測される。

## 8. おわりに

本研究では、現在のコロナ禍の中、黙食・黙飲の実現を可能にするカフェ環境として、近年増加傾向にあるブックカフェ、とりわけより感染リスクが小さいと思われる屋外型のブックカフェに注目し、選択型実験を用いてそれらのブックカフェ環境に対する選好を分析することに取り組んだ。その際には、人々に屋外で読書をしながらカフェを楽しむことの良さ、あるいは悪さを知ってもらうため、琵琶湖の畔にある大津湖岸なぎさ公園にて、自然豊かな空間で読書と共にカフェを楽しむイベント「渚と森の青空ブックカフェ」を開催した。その参加者を対象に行ったアンケート調査のデータを用いることで、より信頼性の高い結果を導くことに努めた。また、そのアンケートデータの一部を用いて、今回当団体が開催したイベントがもたらす社会便益を、トラベルコスト法を用いて計測することにも取り組んだ。

分析の結果得られた重要な知見は以下の 6 点に要約される。(1) ブックカフェではない普通のカフェと、その普通のカフェよりも高い価格でコーヒーが提供されるブックカフェがあるとき、人々は、それらのコーヒーの価格差が約 140 円までであればブックカフェを選択する。(2) ブックカフェではない普通のカフェと、その普通のカフェよりも駅から離れた場所にあるブックカフェがあるとき、人々は、それらの移動時間の差が徒歩約 7 分までであればブックカフェを選択する。(3) ブックカフェではない普通のカフェと、その普通のカフェよりも高い価格でコーヒーが提供されるオープンテラス付きのブックカフェがあるとき、人々は、それらのコーヒーの価格差が約 327 円までであれば、オープンテラス付きのブックカフェを選択する。(4) カフェ属性としてのオープンテラス自体は利用者に高く評価されるが、それは読書をする場所としては必ずしも評価されておらず、「ブックカフェ」と「オープンテラス付き」という二つのカフェ属性が組み合わさることで、人々の効用は部分的に相殺される。(5) 年代が高くなるほど、ブックカフェから得られる効用は増大する。

(6) 「渚と森の青空ブックカフェ」利用者の当イベントへの訪問一回当たりの便益は 371 円となる。もし、毎週末にこのイベントを開催し、それぞれ二日間で 80 人の利用者があったと仮定すると、当イベントがもたらす社会便益は年間約 154 万円と推定される。

予想外だったのは (4) の知見である。これは、当団体の仮説とは逆の傾向を示すものであり、人々は、「ブックカフェ」と「オープンテラス付き」という二つのカフェ属性をそれ

ぞれ魅力的に感じながらも、どちらかといえば、屋内の静かな環境でブックカフェを楽しみたいと考える傾向があることを含意する。この結果が得られたのは、人々が「オープンテラス付き」のカフェを、東京の街中のような人通りの多いところで、街路沿いのテラス席をもつようなカフェとして認識したことによるかもしれない。今回当団体が作り出した、自然に囲まれたオープンなブックカフェ空間に対する定性的な評価は概ね高かったことを考えれば、この(4)の知見については、結論を急ぐべきではない。そのカフェの周辺がどのような環境にあるかによって、「オープンテラス付き」の意味が変わる可能性があることから、それらの視点を含めた調査を行うことが今後の課題である。

ブックカフェは、コロナ禍に適応したカフェ環境である一方で、どうしても利用者の回転率が下がるため、経営者はそのコストの問題を考えて経営を行う必要がある。本研究は、人々はブックカフェを普通のカフェよりも高く評価しており、その利用に際して一定の支払意思を持つことを実証した。得られた支払意思額や犠牲移動時間は、今後ブックカフェの開業を考える経営者にとって有益な情報となろう。今後ブックカフェが普及することで、人々がこれまでの会話を中心とするカフェの使い方を根本から見直し、ブックカフェではない普通のカフェでも、読書をしながら静かに過ごすスタイルが普及するようになれば、コロナの感染拡大を抑えつつ、持続的なカフェ経営が可能となり、利用者もカフェを楽しみ続けることができるという、「三方よし」の理想的な状態が実現するかもしれない。

## 補論 クラウドファンディングの結果と活動の収支

### A.1 クラウドファンディングの概要

今回当団体はクラウドファンディングにより活動資金を調達した。具体的には、地域振興に特化したクラウドファンディングネットワークの一つである FAAVO by CAMPFIRE (FAAVO しが) のサイトで資金を募った<sup>12</sup>。

---

<sup>12</sup> 当プロジェクトの専用ページ (<https://camp-fire.jp/projects/view/332373>) を参照。



図 A.1 クラウドファンディングページのカバー画像

クラウドファンディングのタイプは、支援金の規模に応じて様々なリターン品を返送する「購入型」であり、目標金額に達成しない場合でも、支援頂いた分のお金を受け取ることができる「All in 方式」を採用した。期間は2020年10月10日(土)から2020年11月30日(月)までの約50日間、目標金額は30万円であった。リターン品は表A-1のように整理される。当団体が製作したブックカバーと葉に加えて、第2章で紹介した滋賀県湖南市にあるブックカフェ DONGREE BOOKS&STORY CAFÉ のコーヒー豆も含まれる。さらに過去のゼミ活動の中で作成したレシピ集や、前回のクラウドファンディングの際に好評を得た「ヨシストロー」<sup>13</sup>も制作し、リターン品に含めた。

<sup>13</sup> 2018年度に当ゼミが取り組んだ「ヨシストローによる#SDGs推進プロジェクト (<https://campfire.jp/projects/view/287158>)」において開発した。

表 A-1 クラウドファンディングのリターン品一覧

コース	リターン品
1000 円	お礼の手紙 滋賀の古書店・ブックカフェの紹介パンフレット「書をたずさえてカフェに行こう」
3000 円	1000 円コースのリターン品 オリジナルブックカバー（文庫本サイズ） 愛彩菜でカフェメニュークッキングレシピ集 近江の彩り べんがら色彩スイーツ&ミール レシピ集
5000 円	3000 円コースのリターン品 ヨシストロー紹介パンフレット「ヨシストローで#SDGs」 ヨシストロー2 本（ストローブラシ付き）
1 万円	5000 円コースのリターン品 オリジナル葉（全長約 8cm） DONGREE BOOKS&STORY CAFÉ のコーヒー豆「石部ブレンド（50g）と「湖南ブレンド（50g）」のセット
2 万円	1 万円コースのリターン品 研究成果報告書

出典：筆者作成

クラウドファンディングを開始する時期に合わせて、2020 年 10 月 6 日にプレスリリースを流すとともに、10 月 9 日に滋賀県庁にて記者発表を行った。その後、そのクラウドファンディングページで活動の進捗状況を随時報告するとともに、当ゼミの Facebook ページ (@terawakiche)、Instagram アカウント (@terawaki.lab) でも進捗を紹介した。結果、中日新聞（10 月 19 日）、京都新聞（10 月 27 日・11 月 8 日）、KBS 京都ラジオ（10 月 28 日）、産経新聞（11 月 7 日）、読売新聞（11 月 8 日）、立命館大学新聞社（12 月 21 日）で当活動をご紹介いただいた。

## A.2 クラウドファンディングの結果

クラウドファンディングの結果、延べ 34 人の方々から 31 万円を支援いただき、達成率は 103%となった。購入されたコースの分布は図 A-2 の通りである。最も購入されたのは 5000 円と 1 万円のコースであった。男女別にみた支援者の数は、男性が 22 人（64.7%）、女性が 12 人（35.3%）であった。支援者の年代分布については、図 A-3 のように表される。この図から比較的若い世代からの支援が多かったことがわかる。

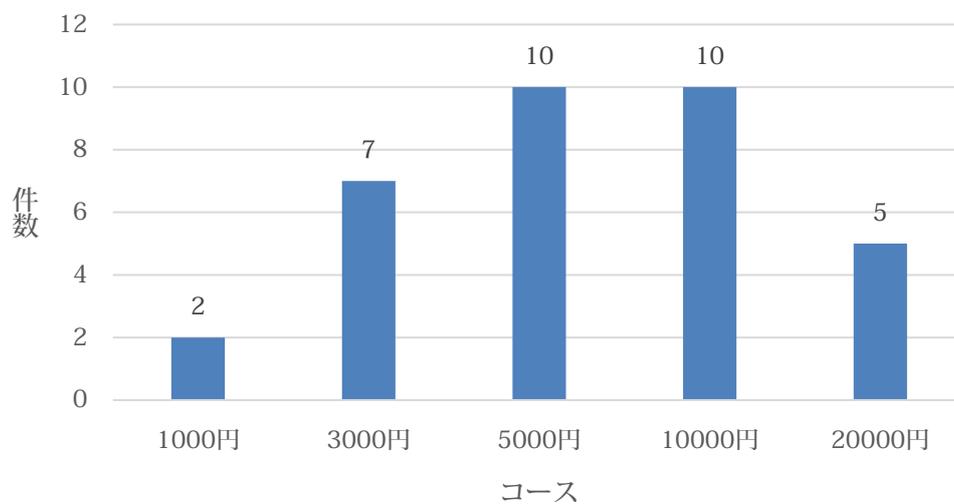


図 A-2 購入された金額コースの分布

出典：FAAVO by CAMPFIRE より提供されたデータから筆者作成

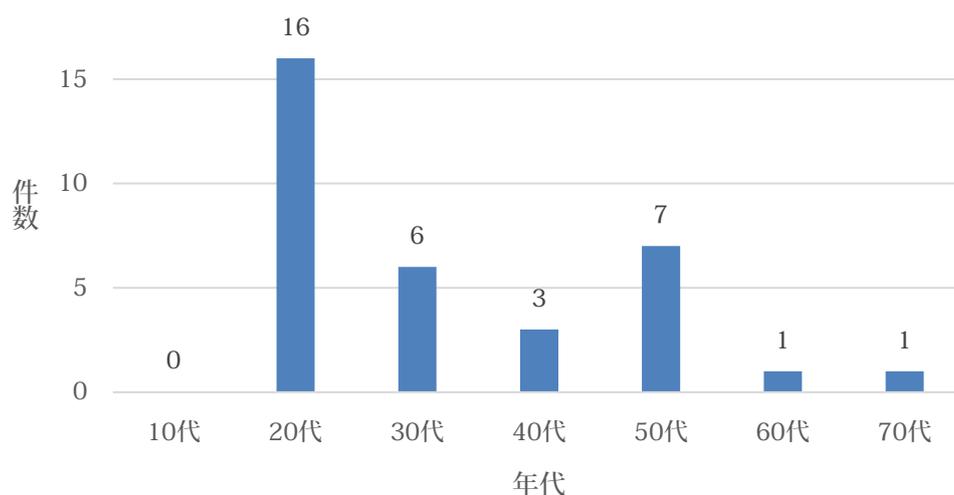


図 A-3 支援者の年代

出典：FAAVO by CAMPFIRE より提供されたデータから筆者作成

支援金が入金された日の推移は、図 A-4 の通りである。入金タイミングとしては、やはり募集の最初の時期が多い。イベント当日やメディアで大きく取り上げて頂いた時期にも支援が入っており、こうしたアピールの機会を逃さないことが重要だといえる。イベントの翌日 11 月 9 日に、20 日以上支援期間を残して 100% を達成したが、それ以降は支援が伸びなかった。支払方法はほとんどがクレジットカードであったが、QR コード決済やコンビニ払いも見られた。

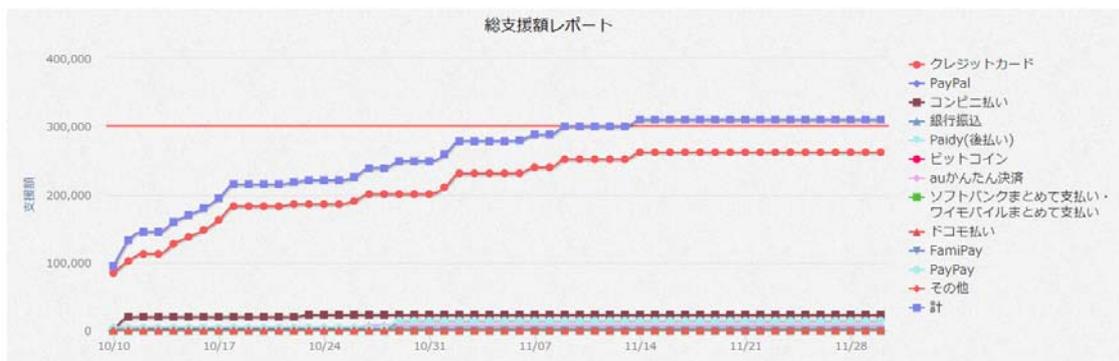


図 A-4 支援金の推移

出典：FAAVO by CAMPFIRE より提供

募集期間中、当団体は専用ページ内で 23 回、進捗状況をレポートした。図 A-5 に示されるように、ページへのアクセスの頻度についても、やはり最初とイベント時、メディアで取り上げられた時期に集中しており、そこで活動の目標をアピールしたり、進捗を報告したりすることが効果的だと思われる。



図 A-5 ページへのアクセスの推移

出典：FAAVO by CAMPFIRE より提供

図 A-6 は参照元別に見たページへのアクセスの推移である。ほとんどサイト内訪問と直接アクセスで占められており、SNS からの流入は少ない。今後の課題としては、SNS からの流入が増えるように、メンバーがそれぞれ広報活動に力を入れることの必要性が提案される。

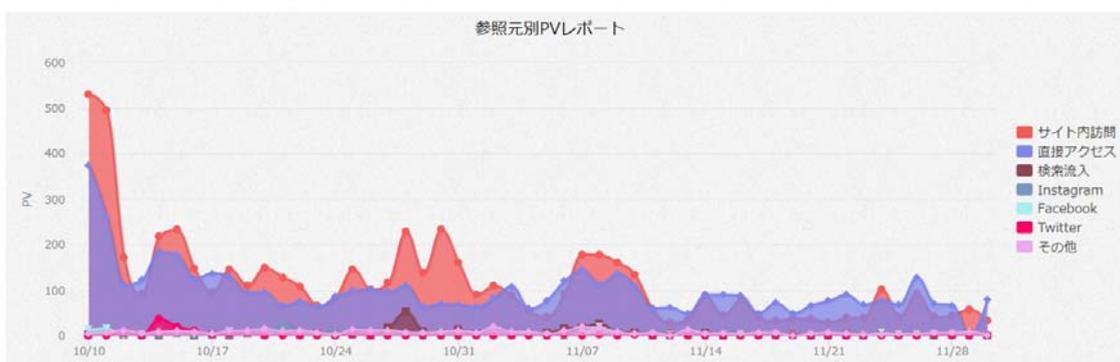


図 A-6 参照元別ページへのアクセスの推移

出典：FAAVO by CAMPFIRE より提供

### A.3 収支報告

今回当団体が取り組んだ活動「渚と森の青空ブックカフェプロジェクト」の収支は表 A-2 のように要約される。収支は概ね均衡する結果となった。なお、差引残高は次回のゼミプロジェクトに繰り越される。

表 A-2 渚と森の青空ブックカフェプロジェクト 2020 年度収支報告

	項目	円	備考
収入の部	前回プロジェクト繰越金	¥360	ヨシストロッププロジェクトより
	寄付	¥100,000	寺脇先生より
	クラウドファンディング支援金	¥310,000	34 人からの支援金
<b>収入合計</b>		<b>¥410,360</b>	
支出の部	クラウドファンディング手数料	¥68,200	支援金の 20%、消費税
	印刷費	¥26,550	パンフレット
	印刷費	¥0	報告書 (¥152,064 を大学から補助)
	消耗品費	¥176,960	イベント用備品
	消耗品費	¥24,312	リターン品作成用備品
	消耗品費	¥14,740	リターン品の購入
	使用料	¥12,010	大津湖岸なぎさ公園
	配送費	¥14,348	リターン品の送料
	交通費	¥47,836	ヒアリング、イベント開催
	運搬費	¥23,980	レンタカー
<b>支出合計</b>		<b>¥408,936</b>	
<b>2020 年度収支</b>		<b>¥1,424</b>	

注：報告書の印刷費、リターン品の配送料は見積金額である。

## 引用文献

- 阿久津隆（2020）『本の読める場所を求めて』朝日出版社
- 青山吉隆・中川大・松中亮治（2003）『都市アメニティの経済学—環境の価値を測る—』学芸出版社
- Foodist Media（2020a）「【新型コロナ】飲食店の32%が廃業を検討か。東京商工リサーチが調査」  
2020年12月23日（<https://www.inshokuten.com/foodist/article/5972/>）参照日：2021年1月31日
- Foodist Media（2020b）「【新型コロナ】飲食店の倒産が11月時点で過去最多を更新。外食大手でも閉店相次ぐ」2020年12月16日（<https://www.inshokuten.com/foodist/article/5964/>）参照日：2021年1月31日
- 藤枝市（2020）「【9月28日】街なかオープンテラスがはじまります」  
（<https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/toshi/oshirase/15483.html>）参照日：2021年1月31日
- 藤岡章子（2015）「カフェというマーケティング・コミュニケーション・プラットフォームの潜在的可能性」『龍谷大学経営学論集』第55巻第1号、pp.30-43
- Grashuis, J., Skevas, T. and Segovia, M.S.（2020）Grocery Shopping Preferences during the COVID-19 Pandemic. *Sustainability*, 12, 5369
- 井上岳・鈴木美央・ホルヘルマザン（2013）「街路沿いのオープンテラスにおける空間的特徴および利用実態の研究—代官山・有楽町を事例として—」『日本建築学会技術報告集』第19巻第42号、pp.699-704
- ITmedia（2015）「20代～40代男女の「読書の実態」とは？ hontoがアンケート結果を発表」2015年2月5日（<https://www.itmedia.co.jp/ebook/articles/1502/05/news027.html>）参照日：2021年2月13日
- Kessels, R., Jones, B. and Goos, P.（2011）Bayesian Optimal Designs for Discrete Choice Experiments with Partial Profiles. *Journal of Choice Modelling*, 4(3), 52-74
- Kim, J. and Lee, J.C.（2020）Effects of COVID-19 on Preferences for Private Dining Facilities in Restaurants. *Journal of Hospitality and Tourism Management*, 45, 67-70
- 木下真紀子（2002）『オープンカフェの魅力に関する研究』東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻修士論文：要旨（<http://www.ut.t.u-tokyo.ac.jp/hp/thesis/2002/11kinoshita.pdf>）参照日：2021年2月13日
- 国土交通省（2020）「新型コロナウイルス感染症の影響に対応するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱いについて」（[https://www.mlit.go.jp/report/press/road01\\_hh\\_001324.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001324.html)）参照日：2021年1月31日
- 国立感染症研究所（2020）「日本国内の新型コロナウイルス感染症第一例を契機に検知された中国武漢市における市中感染の発生」『IASR』第41号、pp.143-144
- 厚生労働省（2020）「新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました」（[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_newlifestyle.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html)）参照日：2021年1月31日

- クレアネット (2015) 「スターバックス&TSUTAYAのカフェで、TSUTAYAも儲かる理由とは？」 2015年4月15日 (<https://www.clarenet.co.jp/column/creative/archives/440>) 参照日：2021年2月13日
- 栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ：第3版』 有斐閣
- 栗山浩一・庄子康 (2005) 『環境と観光の経済評価』 勁草書房
- マクロミル (2002) 「カフェに関する調査」 ([https://www.macromill.com/r\\_data/20020822cafe/](https://www.macromill.com/r_data/20020822cafe/)) 参照日：2021年1月31日
- 未来屋書店 (2017) 「イオングループの未来屋書店、ブック&カフェ業態の「未来屋書店 大津京店」を出店。自社直営のカフェ「MIRAIYA Bookmark Lounge Café」と一体型で、2017年4月13日オープン」 2017年4月12日 (<https://www.dreamnews.jp/press/0000150856/>) 参照日：2021年2月13日
- 未来屋書店 (2015) 「イオングループの未来屋書店、香椎浜店を「ブック&カフェ」にリニューアル。タリーズコーヒーとのコラボレーションで2015年12月3日(木)オープン」 2015年12月02日 (<https://www.dreamnews.jp/press/0000123570/>) 参照日：2021年2月13日
- 日本著者販促センター (2017) 「書店数の推移 1999年～2017年」 (<http://www.1book.co.jp/001166.html>) 参照日：2021年2月13日
- 日本フードサービス協会 (2021) 「データからみる外食産業」 ([http://www.jfnet.or.jp/data/data\\_c.html](http://www.jfnet.or.jp/data/data_c.html)) 参照日：2021年1月31日
- 日本フードサービス協会 (2020) 「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針(改正)に基づく外食業の事業継続のためのガイドライン」 ([http://www.jfnet.or.jp/contents/\\_files/safety/FSguideline\\_201130kai.pdf](http://www.jfnet.or.jp/contents/_files/safety/FSguideline_201130kai.pdf)) 参照日：2021年1月31日
- 西日本ブックカフェ協会 (2016) 「ブックカフェとは」 (<https://www.bookcafe-west.org/ブックカフェとは/>) 参照日：2021年2月13日
- 小山市 (2020) 「オープンテラスによる新型コロナウイルス対策「TERRACE OYAMA 2020」を実施します！」 (<https://www.city.oyama.tochigi.jp/site/renovation/229858.html>) 参照日：2021年1月31日
- Reed, S., Gonzalez, J.M. and Johnson, F.R. (2020) Willingness to Accept Trade-Offs Among COVID-19 Cases, Social-Distancing Restrictions, and Economic Impact: A Nationwide US Study. *Value in Health*, 23(11), 1438-1443
- SankeiBiz (2019) 「インスタ映えで急上昇、「世界遺産より魅力」続々 滋賀で実感「SNS効果」」 2019年1月23日 (<https://www.sankeibiz.jp/smp/econome/news/190123/ece1901230640001-s1.htm>) 参照日：2021年1月31日
- SHOPDX (2015) 「選ばれるカフェを運営するために～新しいニーズへ対応しよう！」 (<https://shopforce.jp/blog/2033/>) 参照日：2021年1月31日
- 寺脇拓ゼミ (2020) 『ヨシストローによる#SDGs推進プロジェクト 報告書』立命館大学寺脇拓ゼミ
- 寺脇拓ゼミ (2018) 『近江の彩 べんがら色彩スイーツ&ミールプロジェクト 報告書』立命館大学寺脇拓ゼミ

TesTee Lab. (2016)「10代女性がカフェに求める要素は値段の安さ、だけど一番人気のカフェはスタバという結果に」(<https://lab.testee.co/teen-cafe>) 参照日：2021年1月31日

THE PAGE (2020)「新型コロナウイルス「これまで起きたこと」時系列で振り返る」2020年5月13日 (<https://news.yahoo.co.jp/articles/e771c91302c1758d3c6f23788119c60130125452>) 参照日：2021年1月31日

脇田秀幸 (2016)「書店の新しい取り組みについての考察」『商大ビジネスレビュー』第5巻第4号、pp.175-183

読売新聞 (2021)「「黙食」呼びかけるポスター、共感の輪広がる…福岡のカレー店主考案」2021年1月28日 (<https://www.yomiuri.co.jp/national/20210128-OYT1T50234/>) 参照日：2021年1月31日

#### 参考：アンケート調査における自由回答

- 読売新聞でイベントを知り、今日も開催されるとのことで遊びに来ました。もっと早く知りたかったです。子供向けの本がもっとあればうれしいです。子供が本を読むきっかけが欲しかったので。本を買ってオレンジジュースを頂けて子供が喜んでいました。ありがとうございました。
- 琵琶湖の前なので場所が最高ですね（お天気が良くないのが残念でしたが）コーヒーもおいしかったです。
- 良いタイミングで出会いました。ありがとうございました。本当はなぎさカフェに寄るところでしたがコーヒーのめて good でした。
- もう少し本の種類、点数が多ければ。
- おじゃましました。また開催してください。
- 大津でまたこのような催しが行われることを願います。
- 外で、本を買ってすぐその場で読むことができ（コーヒー付きで）とても良かったです。椅子に背もたれもあって良かったです。
- 少し寒かった。座布団がやさしかった。
- 青空の下でびわ湖みながらゆっくり本を読んで過ごすのは最高ですね。冬も湯たんぽ入りのこたつのあるオープンブックカフェして欲しい。テントとか
- 11/5の京都新聞の記事で知りました。今後もさまざまなメディアで告知してもらえるとありがたいです。
- また開催してください。
- 子供に買ってあげられる絵本があって助かりました。
- 広い空間での開放感が良かった。自然の中にいる空気感も素敵。
- オープンエリアでのブックカフェの魅力を感じることができました。滋賀県・びわ湖畔で広まるといいですね。
- もっと本屋さんが来てるのかなーと思ってました。
- 旅先で本に出会えるのは素晴らしい体験だと思いました。

- タバコが吸いたかった？
- 安い絵本（1, 2歳児向き）がたくさん欲しい。紙の厚い本が良い。（かじったり破いてしまう為）月1くらいで開催してくれると来やすい。（ex,第1土日など）
- 大学生カッコイイ！
- ゆっくりできそうです。
- 目に見えない価値の測定は面白い試みだと思います。今の世の中測れる物にしか価値がないような風潮があるので・・・
- システム表示をきっちりしてほしかった。
- ゆったりできてとてもよかった。
- なぎさ公園は、音楽イベントは、今までにもありましたが、ブックカフェは初めてで、いい所に目をつけられたと思います。又、古本に巡り会えたのも良かったです。
- 事前のお知らせ不足？（私の場合ですが、きのう、この企画を知った）
- カフェ巡りが好きなので、カフェは閉鎖空間で会話を楽しむ場という概念をくつがえされました。今後屋外テラス付きのカフェが成功していくプロットタイプになると良いなと思いましたネ～☆
- 立命のOBです。ラジオでこのイベントを知りました。コロナでいろいろ大変だと思いますがおつかれ様でした。
- 今日は楽しかったです。コロナの時期で大変ですが、頑張ってください😊今日は曇りでしたが、晴れたらもっと外で読書したいなって気持ちになります。びわ湖をながめながらの読書は良いですね。景色が良いところにブックカフェがあるとたくさんの方が来そうですね。
- 本の冊数が少ない様に思う
- 今回受付と逆方向から来たため、このカフェのシステムがよく分かりませんでした。有料で良いので飲み物等があればいいと思いました。ステキな場所を提供していただきありがとうございました。
- 少し寒かったが気持ちよかった
- 散歩コースでこういった企画があるのは、子連れでも生きやすいし楽しめる。もう少し古書の数が多いとさらに深く楽しめると思う。
- 偶然立ち寄ったところでこのようなステキな機会に出会って良かったです。
- サンドイッチやクッキーなどがあればよかったなあ。
- 本などももう少したくさんあればいいと思いました。学生さん、とても好感持てました。頑張ってください。
- 穏やかな湖辺でゆったりと楽しめました。みなさんご苦労様です。
- 天気も良く、気持ちよく過ごせました。